OLYMPUS®

CAMEDIA

取扱説明書

デジタルカメラ

C-200 ZOOM

■このたびは、オリンパス　デジタルカメラをお買い上げいただき、ありがとうございます。

■ご使用前にこの説明書をお読みください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください。

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

本取扱説明書をお読みになる前に

●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番など、最新の情報については、各カスタマーサポートセンターのアクセスポイントまでお問い合わせください。

●本書の内容については万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。

●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。

●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。

本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。

MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。

その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格とは、日本電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

目次

3 画像を再生しましょう

4 上手に撮影しましょう

5 撮影の上級テクニック

6 再生の上級テクニック

7 パソコンに撮影画像を読み込みましょう

8 付 録

安全にお使いいただくために

製品を正しくお使いいただき、お客様やほかの人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

可燃性ガス、爆発性ガスなどがある場所では使用しない。

可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。

フラッシュを人の目の前（特に乳幼児）に向けて、至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して至近距離で撮影しないでください。

幼児、子供の手の届く場所に置かない。

幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。

- 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
- 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
- カメラの動作部でけがをする。

⚠警告(つづき)

カメラで日光や強い光を見ない。
日光および強い光に向けて、本製品を使用しないでください。視力傷害をきたすおそれがあります。

通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。
充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で使ったり、保管しない。
このような場所でカメラを長時間使ったり保管しないでください。火災や感電の原因となることがあります。

フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。
フラッシュの発光部分を、手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

分解や改造をしない。
本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。

内部に水や異物を入れない。
万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐにスイッチを切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠注意

異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。
異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。(電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。)

濡れた手で操作しない。
濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。

持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。
カメラをストラップで下げているときは、ほかのものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。

温度の高い所へ放置しない。

異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。

専用のＡＣアダプタ以外は使用しない。

カメラで指定されている専用ACアダプタ（EIAJ規格・極性統一型プラグ付）以外は、絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のACアダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。

電源コードを傷つけない。

ACアダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。

以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションに御相談ください。

● ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。

● ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

● 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用中または保管する場合、以下のような場所に放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので避けてください。

■ 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
■ 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど砂、ほこり、ちりの多い場所
■ 火気のある場所
■ 水に濡れやすい場所
■ 激しい振動のある場所

● カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

● レンズを直射日光に向けて放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。

● 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。

● 三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。

● 本体の電気接点部には手を触れないでください。

●レンズに無理な力を加えないでください。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

- 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器などの説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用･放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、アルカリ液の飛散が生じ危険です。
- 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込みなどに、直接接続しないでください。
- 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠警告

- 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
- 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
  - ■ このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
  - ■ 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
  - ■ 充電できないアルカリ電池やリチウム電池、CR-V3（リチウム電池パック）を充電しないでください。
  - ■ ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
  - ■ 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れている電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。

■ 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

● ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を超えても完了しない場合は、充電を中止してください。

● 液漏れや、変色、変形そのほかの異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。

● 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。

● カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。

● 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注意

● 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

● オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA キャメディア」専用です。ほかの機器に使用しないでください。

● 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。

● 充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により４本または２本）充電してご使用ください。

● 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。

● アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やリチウム電池パックなどに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。

● マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱などにより本体に損害をもたらすおそれがあります。

● 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

● ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲

放電(機器使用時)：　0℃～40℃
充電　　　　　　：　0℃～40℃
保存　　　　　　：－20℃～30℃

上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。

● 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池をはずしておいてください。電池の液漏れ・発熱により火災やけがの原因となることがあります。
● 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
● ニッカド電池などの充電式電池を含め、電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。
● 長期間の旅行などには予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。

液晶モニタとバックライトについて

● 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。
● 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。
● 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
● 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
● 液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライト及びコントロールパネルには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。(保証期間外の修理は有料となります。)
● **本製品の液晶画面は、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

C-200 ZOOMの特長

- 高画質211万画素CCD（総画素数）と高性能レンズで、高品位な画像を撮影できます。
- 光学3倍ズームレンズと3倍デジタルズームをあわせ、最大9倍ズーム相当の撮影ができます。
- 露出補正やスポット測光などの多機能を、簡単なメニュー操作で活用できます。
- USB端子を採用。USBケーブルで接続するだけで、パソコンで簡単に画像データを読み込むことができます。*1
- そのほかの多彩な機能
  - 1.8型液晶モニタを採用
  - 動画も撮影可能
  - ビデオ出力端子付きでTVで再生可能*2
  - リムーバブルメディアにはスマートメディアを採用
- 単3型アルカリ電池のほかにリチウム電池パック、単3型ニッケル水素電池を使えます。

*1 お使いのパソコンによってUSBドライバ（付属CD-ROM）をインストールする必要があります。

*2 NTSC方式です。海外では地域によりご利用になれません。

この冊子の読みかた

この冊子は、本機（以後、カメラ）の使いかたに応じて、8つの章に分かれています。

1章　準備をしましょう

カメラの各部の名称と、はじめて使うときの準備について説明しています。お買い上げ後にはじめて使うときは、必ずお読みください。

2章　これだけで撮影できます

電源を入れて静止画を撮影し、写り具合を確認してから電源を切るまでの操作について説明しています。この章を読むだけで、気軽な撮影が楽しめます。必ずお読みください。

3章　画像を再生しましょう

何枚か撮影すると、撮影済みの画像をまとめて確認したり、テレビにつないで鑑賞したりしたくなります。ここでは、電源を入れてから、画像を再生して電源を切るまでの操作について説明しています。前章で何回か撮影した後で、お読みください。

4章　上手に撮影しましょう

ピント合わせ、マクロ撮影、フラッシュの使い分け、セルフタイマ、動画撮影など、簡単に設定できる知っておくと便利な機能について説明しています。何回か撮影し、2章の操作に慣れてからお読みください。

5章　撮影の上級テクニック

撮影のときに役立つさまざまな機能について説明しています。それぞれの機能ごとに、必要に応じてお読みください。

6章　再生の上級テクニック

動画を再生する機能と、再生のときに役立つ機能について説明しています。それぞれの機能ごとに、必要に応じてお読みください。

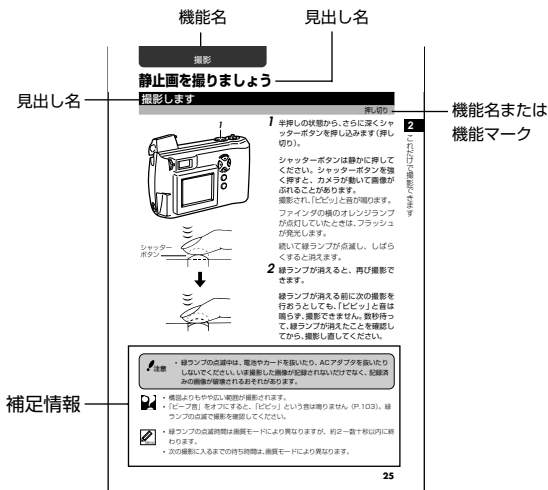
7章　パソコンに撮影画像を読み込みましょう

付属のUSBケーブルでパソコンと接続すると、カメラの画像をパソコンに読み込み、画像処理ソフトで加工したり、パソコンのプリンターでプリントすることができます。ここでは、画像をパソコンに読み込む方法を説明しています。

8章　付録

故障かなと思ったときの対処方法や、主な仕様などについて説明しています。必要に応じてお読みください。

表記について

本書の各ページは、次のように構成されています。

※見出しの上下の機能名や機能マークは、情報を探すときの参考にしてください。

補足情報の記号

ページの下側にある記号には、次の意味があります。

重要な注意事項です。必ずお読みください。

使用上の制限です。

知っておくと役に立つ知識です。

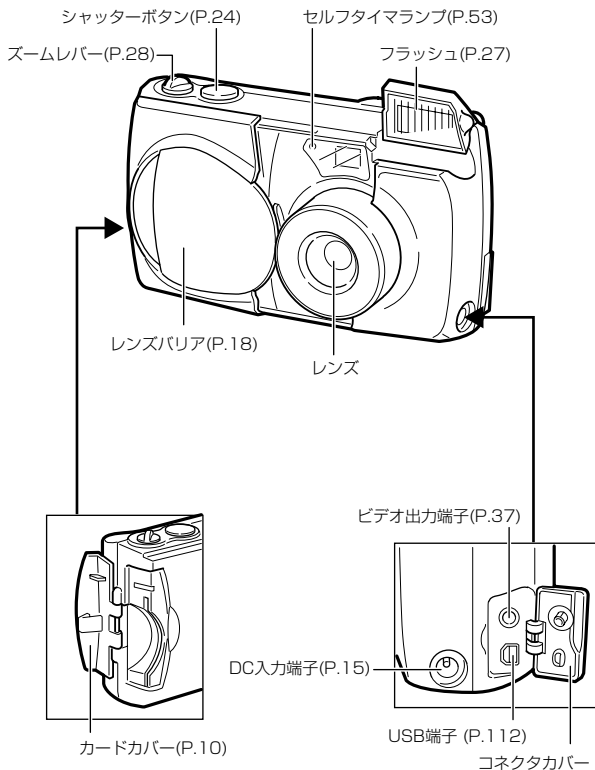
1

準備をしましょう

カメラの各部の名称と、はじめて使うときの準備について説明されています。
お買い上げ後にはじめて使うときは、次のページから順にお読みください。

各部の名称

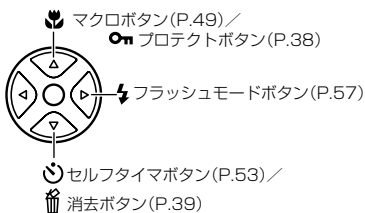
カメラ本体

シャッターボタン(P.24)
セルフタイマランプ(P.53)
ズームレバー(P.28)
フラッシュ(P.27)
レンズバリア(P.18)
レンズ
ビデオ出力端子(P.37)
DC入力端子(P.15)
USB端子 (P.112)
カードカバー(P.10)
コネクタカバー

カメラ本体（つづき）

十字ボタン（P.12）

マクロボタン(P.49)／
プロテクトボタン(P.38)

フラッシュモードボタン(P.57)

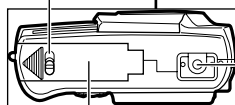
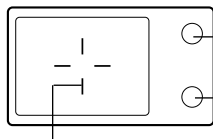
セルフタイマボタン(P.53)／
消去ボタン(P.39)

視度調節ダイヤル
(P.14)

ファインダ(P.44)

液晶モニタ(P.26)

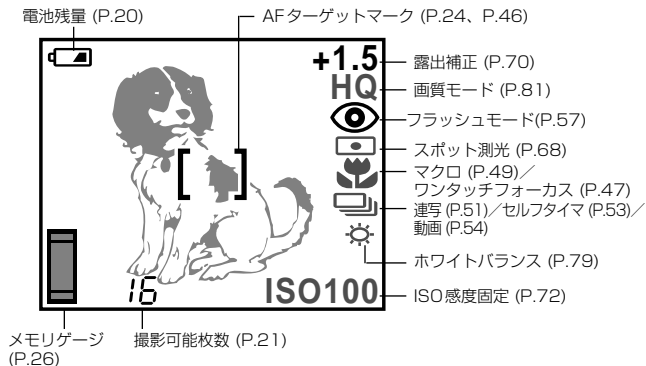
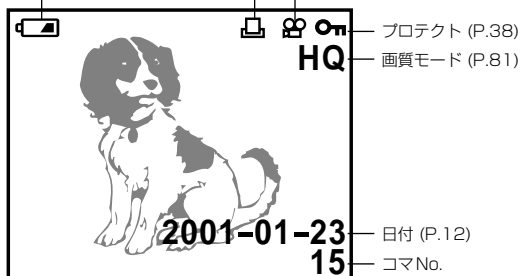
OKボタン(P.12)／
メニューボタン(P.12)

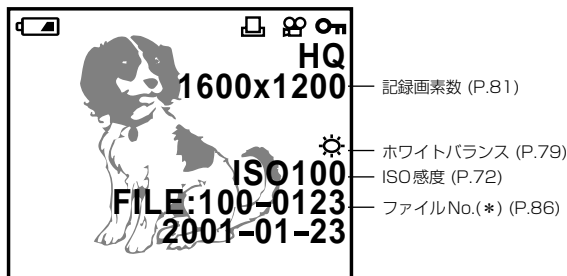
液晶モニタボタン(P.12)

電池カバーロック(P.7)

三脚取り付けネジ穴

電池カバー(P.7)

ファインダ

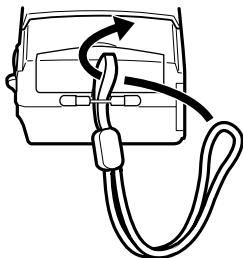
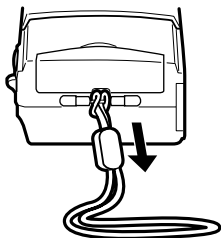
液晶モニタ

撮影モード時の画面

再生モード時の画面

再生モード時の画面（「画像情報表示」が「オン」のとき）

＊DPOFを使用せずにプリントサービスをご利用される場合のご注意

写真店などのプリントサービスで画像のプリントを依頼される場合は必ずファイルNo.でプリントするコマを指定して下さい。

コマNo.で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

詳しくは「こんな方法でプリントできます」を参照してください（P.40)。

ストラップを取り付けます

1 図のように、カメラにストラップを取り付けます。

2 ストラップを通したあと、引っぱって抜けないことを確認します。

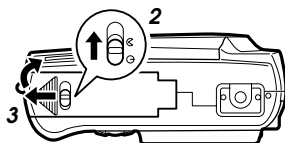
注意

• 上記にしたがって正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とした場合、損害など一切の責任は当社では負いかねますのでご了承ください。

電池を入れます

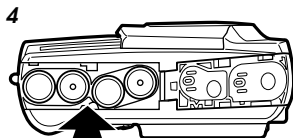
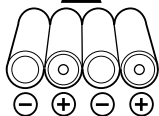
電池は単3アルカリ電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、ニッカド電池のいずれかを４本使用するか、CR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パックを２個使用します。マンガン電池は使用できません。

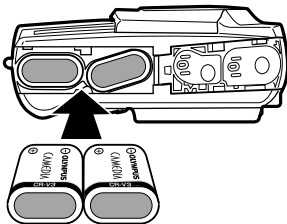
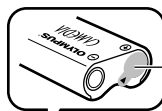
異なる種類の電池を混ぜたり、電池の方向を間違えないようにしてください。発熱によりカメラが破損することがあります（P.VIII）。

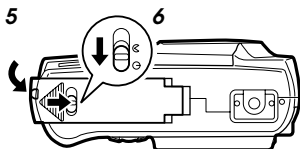
単3電池の場合

リチウム電池パックの場合

1 電源が切れていることを確認します。

レンズバリアが閉じています。
液晶モニタが消えています。

2 電池カバーロックを ⊖ から ☾ の方向へスライドします。

3 電池カバーを横にずらし、引き上げます。

4 図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。

リチウム電池パックの場合は、「CAMEDIA」のラベルがレンズ側に来るようにして入れます。
絶縁シールが貼ってあるものもありますので、その場合ははがしてお使いください。

絶縁シール

銀色のラベルは
はがさないでください。

5 ◀部分を押し、電池カバーが閉じた状態で横にずらします。

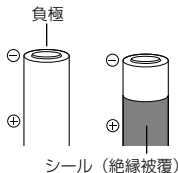
電池カバーが閉まりにくいときは無理に押さず､電池カバーをカバーの刻印の｢OPEN｣の方向へ押しながら閉めてください。

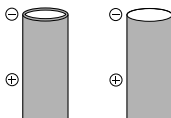
6 電池カバーロックを、⊗から⊖の方向へスライドします。

- CR-V3（当社製LB-01)リチウム電池パックは、充電できませんのでご注意ください。
- アルカリ電池は性能のバラツキが大きく､特に低温では劣化します｡リチウム電池パックや充電式のニッケル水素電池のご使用をお勧めします。
- マンガン電池は使用できません｡電池のついてのご注意をお読みください(P.VIII)｡
- 電池室内の電極が汚れていると、電池の寿命が著しく短くなります。電池を外した状態で内部を触らないでください。
- 電池とACアダプタ（別売）を外した状態で約1時間放置すると、すべての設定は初期設定に戻ります。

⚠警告

外装シール(絶縁被覆)を一部またはすべて剥がしている電池や、破れている電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になります。絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール(絶縁被覆)の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

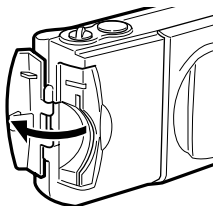
下記のような形状の電池はご使用になれません

シール(絶縁被覆)がすべて剥がされているもの(裸電池)または一部が剥がされているもの。

負極(マイナス面)の一部に膨らみがあるが、負極がシール(絶縁被覆)で覆われていないもの。

負極(マイナス面)が平らな電池。
(負極の一部がシール(絶縁被覆)で覆われているものと負極がシールで覆われていないものがありますが、どちらもご使用になれません。)

スマートメディアをセットします

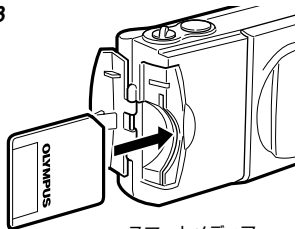
撮影前に、必ずスマートメディア（以後、カード）をセットします。

2

3

スマートメディア
を差し込む

1 電源が切れていることを確認します。

レンズバリアが閉じています。
液晶モニタが消えています。

2 カードカバーを開けます。

3 カードを図の向きにして、カメラに奥まで差し込みます。

4 カードカバーをカチッというまで閉じます。

カードカバーが正しく閉じられていないと、カメラの電源が入りません。

カードを取り出すには

手順3で、図と逆の方向に引き抜きます。

カメラの電源が入っているときは、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、ACアダプタを抜いたりしないでください。カード内の画像データが破壊されることがあります。破壊された画像データの復旧はできません。

市販のカードを使うときは

3V（3.3V）カードをご使用ください。5Vカードは使用できません。
市販のカードや、パソコンなどほかの機器で初期化（フォーマット）したカードは、このカメラで認識できないことがあります。また、書き込み時間が長くなったり、撮影可能枚数が少なくなることもあります。ご使用になる前に、このカメラで初期化してください（P.108）。

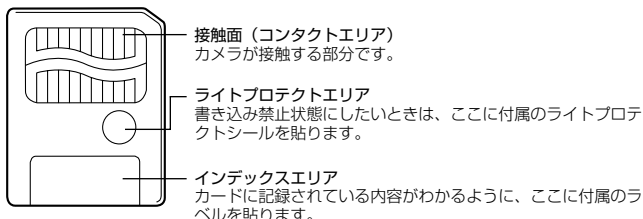
カードについて

スマートメディアとは？

撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。スマートメディアに記録した画像は、自由に削除したり、上書きしたり、パソコンで加工することができます。

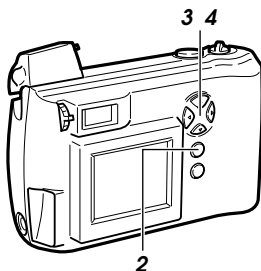
使用できるスマートメディア

- 付属の8MBの標準カード
- 別売のオリンパス製カード　4MB/8MB/16MB/32MB/64MB/128MB
- 市販の3V（3.3V）カード　4MB/8MB/16MB/32MB/64MB/128MB

＊2MBカードは使用できません。

スマートメディアのお取り扱い上の注意

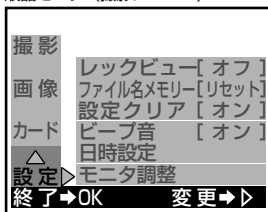
- 動作温度：0℃〜55℃、保管温度：-20℃〜65℃
  動作・保管湿度：90％以下
- 保管時と携帯時は、静電気防止ケースに入れてください。
- カードを曲げたり、衝撃を与えないでください。
- スマートメディアの取扱説明書（付属）もお読みください。
- カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。

日付／時刻を設定します

設定した日時の情報は、撮影時に画像と共にデータとして記録されます。撮影の前には、日時の設定が正しいことを確認してください。

1 カードがセットされていること（P.10）を確認し、レンズバリアを開けて下さい。

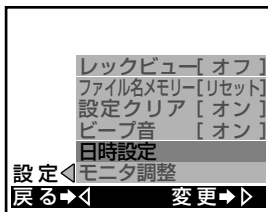
レンズがせり出し、フラッシュが起き上がります。

カードに画像が記録されているときは再生モード（レンズバリアを閉じて液晶モニタボタン（ ）を押す）でもこの設定はできます。

液晶モニタ（撮影メニュー）

2 メニューボタン（ ）を押します。

液晶モニタに撮影メニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して画面の「設定」に合わせ、▷ を押します。

液晶モニタ（設定グループ）

4 十字ボタンの △ ▽ を押して「日時設定」に合わせ ▷ ボタンを押します。

日時設定画面が表示されます。

液晶モニタ（日時設定画面）

液晶モニタ（日時設定画面）

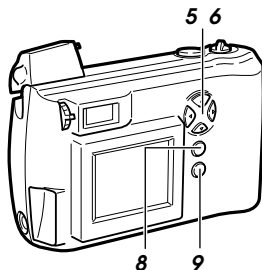
5 十字ボタンの △ ▽ を押して日付の順序を
Y-M-D（年・月・日）
M-D-Y（月・日・年）
D-M-Y（日・月・年）
の中から選択し、▷ を押します。

数値の設定に移動します。

6 十字ボタンの △ ▽ を押して最初の数値（この例では2001年）を設定し、▷ を押します。

次の数値に移動します。

◁ を押すと1つ前の数値の設定位置に戻ります。

7 手順6の操作を繰り返し、時刻まで設定します。

8 設定が終了したら、OKボタンを押します。

日時が設定され、設定グループのメニューに戻ります。
0秒の時報に合わせてOKボタンを押すと、正確に時間を合わせることができます。

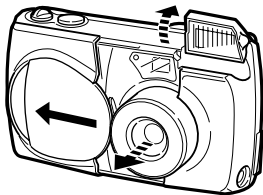
9 液晶モニタボタンを押します

液晶モニタの表示が消え、電源が切れます。

ファインダを見やすくします

より使いやすくするために、お使いになる方の視力に合わせてファインダを調節しておきましょう。

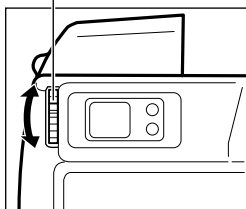
1 レンズバリアをスライドさせる

2 視度調節ダイヤル

3 ファインダ

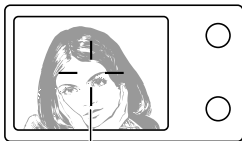
AFターゲットマーク

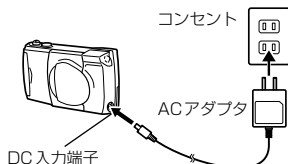
1 レンズバリアを、カチッと音がするまでスライドさせます。

電源が入り、レンズがせり出し、フラッシュが起き上がり（ポップアップ）ます。

2 ファインダをのぞきながら、視度調節ダイヤルを少しずつ回します。

3 AFターゲットマークがはっきりと見えるところで、ダイヤルを止めます。

4 撮影の準備が整いました。

2章を順にお読みください。
ひとまず電源を切るときは、レンズバリアを閉じてフラッシュを倒します（P.30）。

ACアダプタ（別売）を使う場合

専用ACアダプタ（C-7AC=別売）を接続すると、ご家庭のコンセント（AC100V）を利用できます。ACアダプタを接続しても、カメラの中の電池は充電できません。

注意
- ACアダプタE-7ACはご使用になれません。
- ACアダプタを長時間接続するとACアダプタが少し熱を持ちますが、故障ではありません。

- **ACアダプタを接続したり外したりするときは、カメラに電池が入っているか否かに関わらず、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。**
- **パソコンに接続している間は、常にカメラの電源が入っています。ACアダプタを接続したり外したりしないでください。**

⚠警告

正しい使用法を守らないと、火災・感電・やけどのおそれがあります。

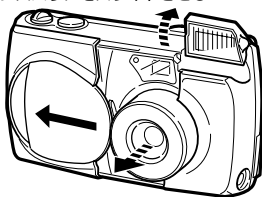
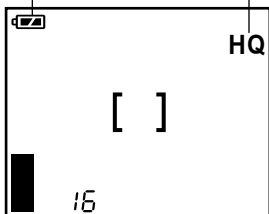
- 電源は必ずAC100Vをご使用ください。
- ACアダプタは国内でのみ使用可能です。海外では使用しないでください。
- ACアダプタの差し込みが不完全な状態では使用しないでください。
- 濡れた手でACアダプタを絶対に抜き差ししないでください。
- 万一ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常が発生した場合、直ちにACアダプタをコンセントから抜いて使用を中止してください。ACアダプタやカメラに異常があった場合は、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- 専用のACアダプタ（EI AJ規格・極性統一型プラグ付）以外は絶対に使用しないでください。カメラまたは電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
- ACアダプタをコンセントから抜くときは、必ずACアダプタの本体を持って抜いてください。
- ACアダプタのコードを無理に引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったり、継ぎ足したりすることは絶対にやめてください。
- ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があったりした場合は、すぐにお買い上げの販売店にご相談ください。
- 使用しないときは、必ずコンセントからACアダプタを取り外してください。

2

これだけで撮影できます

カメラの使いかたを覚えるには、使ってみるのが一番の近道です。ここでは、電源を入れて静止画を撮影し、写り具合を確認してから電源を切るまでの操作を説明します。
この章は、次のページから順に、カメラを操作しながらお読みください。

電源を入れます

レンズバリアをスライドさせる

1 レンズバリアを、カチッと音がするまでスライドさせます。

撮影モードで電源が入ります。

レンズがせり出し、フラッシュが起き上がり（ポップアップ）ます。レンズがせり出してこないときは、レンズバリアが最後まで開ききっていません。カチッと音がするところまで開いてください。

液晶モニタに左図の情報が表示されます。

しばらくすると液晶モニタの表示が消えます。

電源を切るときは、「電源を切ります」を参照してください（P.30）。

スリープモード（節電状態）になったら

レンズバリアを開けて3分間なにも操作しないと、電池の消費を少なくするためにスリープモード（節電状態）になります。液晶モニタが点灯しているときは、液晶モニタが自動的に消えます。撮影を再開するには、次のいずれかの操作を行ってください。

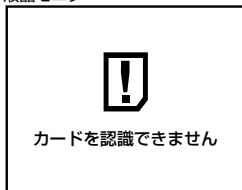
シャッターボタンやズームレバーを軽く押す。
レンズバリアをいったん閉めて、再び開く。
十字ボタン、OK／メニューボタン、液晶モニタボタンのいずれかを押す。

スリープモードになってから約4時間たつと自動的に電源が切れます（新品電池をお使いの場合は、電池の種類によっては電源が切れるまでの時間は長くなります。）が、電池の寿命を長持ちさせるためにも、しばらく撮影しないときはできるだけ電源を切っておいてください。

カメラの動作中は、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、ACアダプタを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。

液晶モニタを確認しましょう

カードは使えますか

カードを入れ忘れていたり、カードに問題があるときは、液晶モニタにメッセージが表示されます。メッセージの指示に従ってください。

カードを認識できません

「カードを認識できません」と表示されたら

カードが入っていないか、しっかりと差し込まれていない可能性があります。
電源を切ってから（P.30）、カードを入れ直してください。

そのほかのメッセージが表示されたら

液晶モニタの表示に従ってください。詳しくは「エラーメッセージ表」を参照してください（P.136）。

液晶モニタ（フォーマット）

カードセットアップ画面が表示されたら

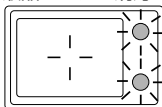
初期化（フォーマット）が必要なカードを入れています。フォーマットを実行すると、カード内のすべての画像が消去されます。
詳しくは「カードを初期化（フォーマット）する」を参照してください（P.108）。

電池は残っていますか

液晶モニタを表示させると、電池残量の目安が表示されます。
レンズバリアを開けて電源を入れたとき（撮影モード）は、液晶モニタが自動的に点灯して情報を表示します。しばらくすると液晶モニタは消灯します。

が点灯（自動的に消えます）。
電池の残量は十分です。撮影できます。

が点滅し、液晶モニタのほかの表示は通常通り点灯。
電池の残量が少なくなりました。撮影は可能ですが、途中で電池が切れるおそれがあります。新しい電池と交換してください。

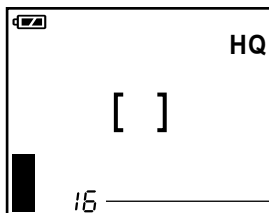
液晶モニタが消灯し、ファインダ横の緑とオレンジのランプが同時に点滅。

電池の残量がなくなりました。新しい電池と交換してください。

改めて確認するには

いったん撮影メニューを表示します（P.66）。撮影メニューを消したときに、電池残量の目安が表示されます。

注意
長期の旅行、大切な行事、寒冷地での撮影などには予備の電池をご用意ください。
電池残量がなくなると、撮影後または電源を入れたときに「ピピピ・・・」と連続して警告音が鳴り、コマNo.が点滅することがあります。撮影後にこのようになった場合は撮影が正常に行なわれておりません。新しい電池に交換のうえ、改めて撮影を行なってください。
使用する電池の種類によって が表示されるタイミングが変わりますのでご注意ください。ニッケル水素電池をお使いの場合、リチウム電池パックをお使いのときよりも早く が表示されます（使用する環境などによっては、 が極端に
早く表示されたあとで電池が長時間もつ場合があります）。

撮影可能枚数は十分ですか

撮影モードで電源が入ると、液晶モニタに撮影可能枚数が表示されます。液晶モニタの表示が消えているときは、液晶モニタボタン（IOI）を押すと表示できます（P.26）。

撮影可能枚数が0になると「ピー」という音が鳴り、緑ランプが点滅し、液晶モニタには「撮影可能枚数が0です」と表示されます。(P.136)
撮影可能枚数と秒数は画質モード（P.81、P.55）によって変わります。

撮影可能枚数（おおよその枚数です）

スマートメディアの記憶容量 ＼ 画質モード / 記録画素数	SQ※		HQ	SHQ	TIFF※
	標準	高画質			
	640x480		1600x1200		
8MB	82	32	16	5	1
16MB	165	66	31	11	2
32MB	331	132	64	22	5
64MB	644	265	128	45	11

※SQとTIFFの記録画素数は変更できます（P.81）。

動画撮影可能秒数（おおよその秒数です）

画質モード	記録サイズ	スマートメディアの記憶容量			
		8MB	16MB	32MB	64MB
HQ	320x240	23	47	96	193
SQ	160x120	104	210	424	851

※一度のシャッターボタンの操作で撮影できる秒数には制限があります（P.55）。

撮影対象によって、枚数や秒数が若干増減することがあります。
撮影ごとにカウンタが減らなかったり、1 枚消去しても増えない場合があります。

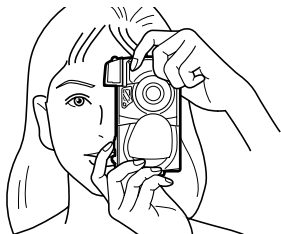
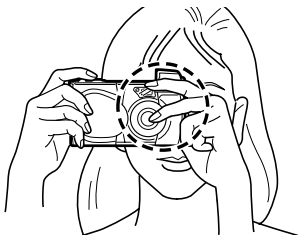
カメラを正しく構えましょう

正しい構えかた

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

縦位置のときは、フラッシュが上になるようにします。

横位置

縦位置

間違った構えかた

レンズとフラッシュに、指やストラップがかからないようにご注意ください。

フラッシュを押さえないようにしてください。

距離によって撮りかたを変えます

撮影したいもの（被写体）との距離によって、特別な操作が必要な場合や、液晶モニタを使用した方が良い場合があります。撮影するときは、被写体とのおおよその距離を知っておきましょう。

スナップや風景を撮影するとき（約 1.5 m ～ ∞（無限遠））

ファインダを使って撮影することをお勧めします（P.24）。

人物のアップを撮影するとき（0.8 m ～ 約 1.5 m）

ファインダを使って撮影できますが、液晶モニタを使うと良い場合もあります（P.26）。詳しくは、下のコラムを参照してください。

特別に近くを撮影するとき（0.2 m ～ 0.8 m）

マクロ機能を使い、液晶モニタで被写体と構図を確認して撮影してください（P.49）。マクロ機能を使わなくても撮影できますが、ピントと露出が合わずに正しく撮影できないことがあります。

ファインダと液晶モニタの特徴

撮影する範囲を決めるとき、このカメラではファインダに加えて液晶モニタも利用できます。このときにファインダをのぞくか、液晶モニタに表示するかは、それぞれの特徴を考えて使い分けてください。

ファインダ

長所：カメラがぶれにくく、電池の消耗を抑えます。

短所：近くのものを撮影するときに、ファインダの外枠と撮影画像との間にズレが生じます（P.44）。

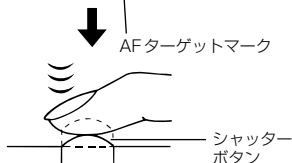
液晶モニタ

長所：撮影する範囲を正しく確認できます。

短所：カメラがぶれやすく、電池の消耗が早くなります。

静止画を撮りましょう

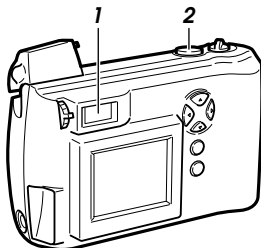
まず、ピントを合わせます

半押し

1 ファインダをのぞいて、構図を決めます。

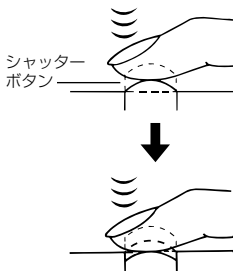
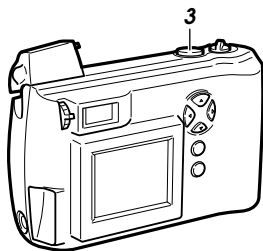
2 シャッターボタンを、ファインダの横の緑ランプが点灯するまで軽く押します（半押し）。

ピントと露出が自動的に決まり、固定されます。

点滅したときはピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しし直してください。

周囲が暗いときは、ファインダの横のオレンジランプも点灯します（P.27）。

☞ **そのまま、次ページの「撮影します」へ進んでください。**

撮影します

全押し

3 半押しの状態から、さらに深くシャッターボタンを押し込みます（全押し）。

シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すと、カメラが動いて画像がぶれることがあります。
撮影され、「ピピッ」と音が鳴ります。

ファインダの横のオレンジランプが点灯していたときは、フラッシュが発光します。

続いて緑ランプが点滅し、しばらくすると消えます。

4 緑ランプが消えると、再び撮影できます。

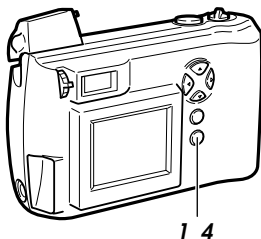
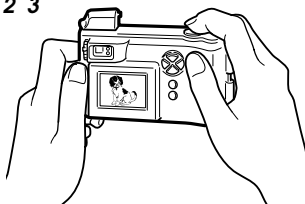
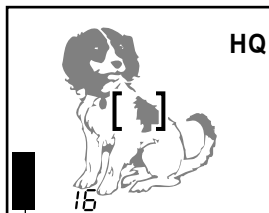
緑ランプが消える前に次の撮影を行おうとしても、「ピピッ」と音は鳴らず、撮影できません。数秒待って、緑ランプが消えたことを確認してから、撮影し直してください。

注意　緑ランプの点滅中は、電池やカードを抜いたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。いま撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

構図よりもやや広い範囲が撮影されます。
「ビープ音」をオフにすると、「ピピッ」という音は鳴りません（P.90）。緑ランプの点滅で撮影を確認してください。

緑ランプの点滅時間は画質モードにより異なりますが、約2～数十秒以内に終わります。
次の撮影に入るまでの待ち時間は、画質モードにより異なります。

液晶モニタを使うときは

2 3

1 レンズバリアを開けたままで液晶モニタボタン（ ）を押します。

液晶モニタが点灯します。

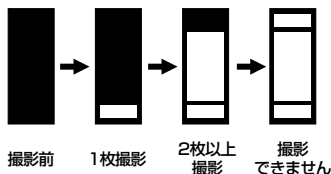
2 液晶モニタを見ながら、構図を決めます。

3 ファインダを使った撮影と同じ手順で撮影します（P.24- 25)。

液晶モニタのメモリゲージが点灯します。

メモリゲージがすべて点灯すると撮影できません。数秒待って、メモリゲージの少なくとも一番上が消えてから撮影してください。

4 液晶モニタの表示を消すときは、液晶モニタボタンを押します。

電源を切るときは、「電源を切ります」を参照してください（P.30)。

液晶モニタ

メモリゲージの表示

> **注意** メモリゲージの点灯中は、電池やカードを抜いたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。いま撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

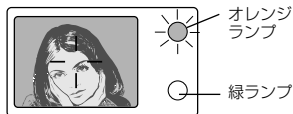
液晶モニタを使って撮影すると､使わない時よりも書き込み時間が長くなります。被写体に斜めの線があると、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
晴天下のように明るい場所で撮影すると、わずかに縦スジ（スミア）が入る場合がありますが、故障ではありません。

液晶モニタの画像は構図を確認するためのものです。大切な画像を撮影するときは、撮影後にテレビ画面やパソコンで画像のピントや露出を確認してください（P.37、P112）。

暗いところで撮影するときは

周囲が暗いときは、シャッターボタンを半押しすると、ファインダ横のオレンジランプと緑ランプが点灯します。

このときにシャッターボタンを全押しすると、フラッシュが発光します。

ファインダ

オレンジランプが点滅中は

フラッシュを充電中です。数秒待って、オレンジランプが消えたことを確認してから、撮影してください。

フラッシュで撮影できる範囲

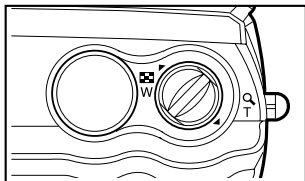
フラッシュで撮影できる距離は、ズームレバー（P.28）を操作すると変化します。

W側へいっぱいに押す（広角）：約0.2～4.0m

T側へいっぱいに引く（望遠）：約0.2～2.6m

※約0.2～0.8mの範囲では、マクロ機能を使ってください（P.49）。

拡大して撮影しましょう

3倍ズームで望遠（Tele）や広角（Wide）撮影ができます。望遠にすると被写体を大きく撮影でき、広角にすると広い範囲を撮影できます。

ズームレバーを W（Wide）側へ押すと広角になります。

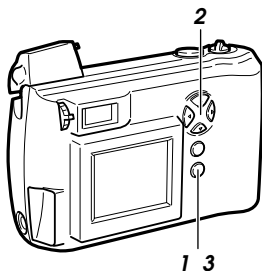
ズームレバーを T（Tele）側へ引くと望遠になります。

液晶モニタを使うときは

ズームバーを操作すると、ズームの状態を示すズームバーが表示されます。ズームバーは、ズームレバーの操作を終えると消えます。

デジタルズームをオンにすると、最大9倍ズームで撮影できます。（P.74）

撮った静止画を再生しましょう

撮影したら、画像を再生してみましょう。

1 撮影モード（レンズバリアの開いた状態）で、液晶モニタボタン（IOI）をすばやく2回押します。

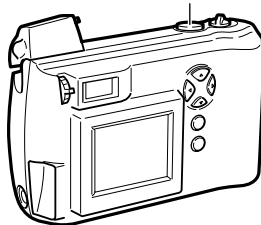
再生モードになり、しばらくすると撮影した最新の画像が液晶モニタに表示されます。

1枚も撮影されていない場合は、液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。

2 十字ボタンを短く押して、別の画像を確認します。

◁ ：1枚前の画像を表示
▷ ：次の画像を表示
△ ：10枚前の画像を表示
▽ ：10枚先の画像を表示

3 液晶モニタボタンを押します。

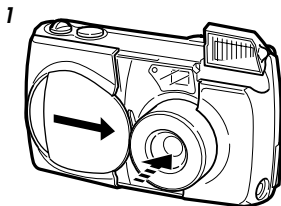
液晶モニタが消えて撮影モードに戻り、次の撮影ができます。

再生中に撮影するには

液晶モニタに画像を表示中でも、突然、シャッターチャンスが到来するかもしれません。

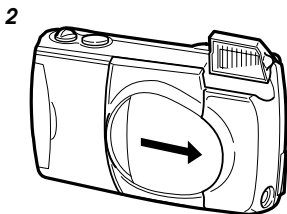
そんなときは、ファインダをのぞいてシャッターボタンを押してください(P.24 – 25)。すぐに撮影できます。

十字ボタンの △ ▽ を1秒以上押し続けると、別の機能が働きます（P.38、P.39）。

電源を切ります

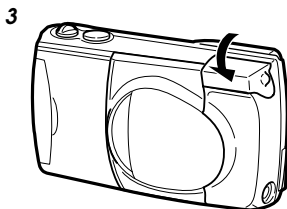
1

1 レンズバリアを少し閉じます。

レンズに触れる直前にカチッとした感触があります。
レンズバリアは、レンズに強く押し当てないでください。
レンズがカメラに引き込まれます。

2

2 レンズが完全に引き込まれたら、レンズバリアを完全に閉じます。

電源が切れます。

カチッと音がするところまでレンズバリアを閉じます。閉じかたが不完全だと、フラッシュを閉じることができません。

3

3 フラッシュを閉じます。

注意　レンズバリアを閉じる際は、レンズに強く押し当てないでください。キズや故障の原因になります。

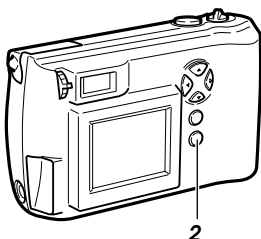
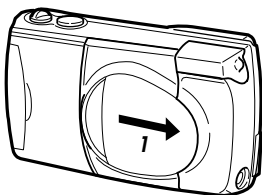
撮影した画像はカードに記録されます。電源を切ったり、電池を交換しても、撮影した画像は消えません。

3

画像を再生しましょう

前章では、静止画を撮影し、その直後に画像を確認しました。ここでは、撮影済みの画像をまとめて確認したり、テレビにつないで鑑賞したりといった便利な再生機能を説明します。
前章で何回か撮影したあとで、まず次の「再生しましょう」をお読みください。その後は、使ってみたい機能のページからお読みください。

再生しましょう

再生モードで電源を入れる

1 レンズバリアが閉じていることを確認します。

2 液晶モニタボタン（ ）を押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影した最新の画像が液晶モニタに表示されます。

1枚も撮影されていない場合は、液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。

カードに問題があると、メッセージが表示されます（P.19）。

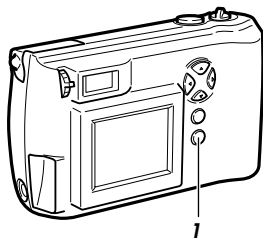
電池残量が残り少ない場合は、電池残量警告のマークが点滅します（P.20）。

電池で使用している場合は3分間なにも操作しないと自動的に電源が切れますが、しばらく操作しないときは、できるだけ電源を切っておいてください。また、新品電池をお使いの場合は、電池の種類によっては電源が切れるまでの時間は長くなります。

注意

- カメラの電源が入っているときは、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、ACアダプタを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。カードを交換するときも、必ず一度電源を切ってからカードカバーを開けてください。
- 液晶モニタを強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。

- 電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、0.5〜2秒してから画像が表示されることがありますが、これは故障ではありません。

再生モードで電源を切る

1 液晶モニタボタン(⊡)を押します。

液晶モニタの表示が消え、電源が切れます。

1枚ずつ再生しましょう

液晶モニタに、画像を1枚ずつ表示します。2章の「撮った静止画を再生しましょう」と同じ操作です（P.29）。

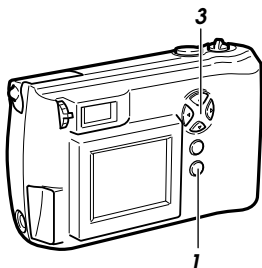
1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタン（◙）を押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影した最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 画像を確認します。

液晶モニタには、再生している画像の情報が表示されます。

表示される情報は、設定や画像の種類によって異なります。

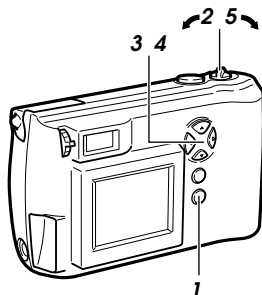
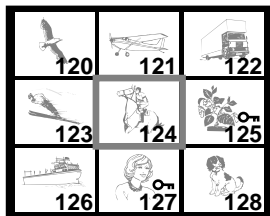
プロテクトマーク以外の情報は、約3秒間で自動的に消えます。

液晶モニタ
（画像情報表示（P.105）がオンになっているとき）

3 十字ボタンを短く押して、別の画像を表示します。

◁ ：1枚前の画像を表示
▷ ：次の画像を表示
△ ：10枚前の画像を表示
▽ ：10枚先の画像を表示

- 十字ボタンの △ ▽ を1秒以上押し続けると、別の機能が働きます（P.38、P.39）。

まとめて再生しましょう

液晶モニタをいくつかに分割して、複数の画像を同時に表示できます。

液晶モニタ

1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタン(▭)を押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影した最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 ズームレバーをW(▦)側に押します。

表示していた画像を含む複数の画像が一覧表示されます。

1画面に表示する枚数は変更できます（P.110）。

3 十字ボタンを短く押して、別の画像を一覧表示します。

△：左上の画像の直前まで表示
▽：右下の画像の直後から表示

4 十字ボタンを押して、表示中の画像を選択します。

◁：左の画像を選択
▷：右の画像を選択

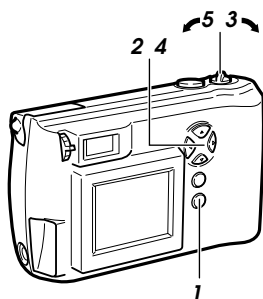
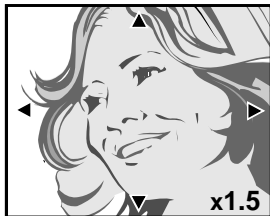
5 ズームレバーをT（Q）側に引きます。

選択されている画像が液晶モニタ一杯に表示されます（P.34）。

再び一覧表示するには、手順2へ戻ります。

• 十字ボタンの △ ▽ を1秒以上押し続けると、別の機能が働きます（P.38、P.39）。

画像を拡大しましょう

画像を拡大して表示できます。
なお、動画（🎥）マークのついている画像（動画）は拡大表示できません。

液晶モニタ

1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタン（▭）を押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影した最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 十字ボタンで拡大したい画像を選択します（P.34 – 35）。

3 ズームレバーをT（🔍）側に引きます。

引くたびに、再生画像が次の倍率で大きくなります。

1倍→1.5倍→2倍→2.5倍→3倍

4 十字ボタンを上下左右に押します。

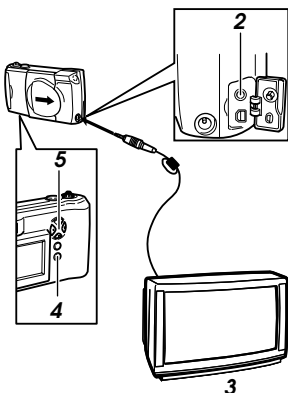
再生する範囲が上下左右に移動します。

5 ズームレバーをW（▦）側に押します。

画像の表示が、1倍に戻ります。

別の画像を表示するには、いったん1倍表示に戻してください。

テレビ画面に表示しましょう

付属のビデオケーブルでテレビに接続すると、大きな画面で画像を鑑賞できます。

1 テレビとカメラの電源が切れていて、カメラのレンズバリアが閉じていることを確認します。

2 ビデオケーブルを、カメラのビデオ出力端子とテレビのビデオ入力端子に差し込みます。

3 テレビの電源を入れて、「ビデオ入力」に設定します。

設定方法については、テレビの取扱説明書をお読みください。

4 カメラの液晶モニタボタン（IOI ）を押します。

再生モードで電源が入り、撮影された最新の画像がテレビに表示されます。

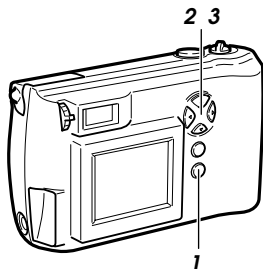
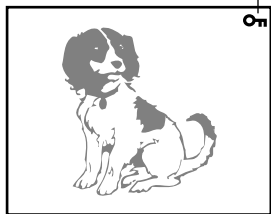
5 十字ボタンで画像を選択します(P.34 – 35)。

- ビデオケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタは点灯しません。
- テレビの調整により、画像が画面中央からずれることがありますが、故障ではありません。
- ご使用のテレビによっては、画像の外側に黒枠が表示されることがあります。このような状態でテレビからビデオプリンタ（市販）に出力すると黒枠が目立つことがあります。

- ACアダプタ（別売）の使用をお勧めします。
- カメラを縦位置にして撮影した画像は、見やすいように回転して再生することができます（P.104）。

誤って消さないために

確実に残しておきたい画像は、プロテクト（消去禁止）を設定してください。プロテクトを設定した画像は、1コマ消去（P.39）や全コマ消去（P.107）をしても消去されなくなります。

電源を切っても、設定したプロテクトは解除されません。

液晶モニタ　　プロテクトマーク

1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタン( )を押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影した最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 十字ボタンで残しておきたい画像を選択します。

1枚表示（P.34）でも、一覧表示（P.35）でも設定できます。

3 十字ボタンの △（ ⊶ ）を1秒以上押し続けます。

選択した画像にプロテクト（消去禁止）が設定され、プロテクトマークが画像の右上に表示されます。

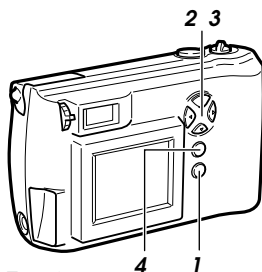
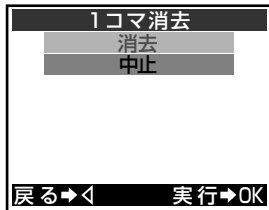
プロテクトを解除するには

手順3で再び、十字ボタンの △ を1秒以上押し続けます。
液晶モニタの ⊶ マークが消えます。

注意　• カードを初期化すると、プロテクトした画像も消去されます。

• ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクトを設定できません。

1枚ずつ消去します

必要のない画像を消去すると、消去した分だけまた撮影をすることができます。消去したい画像にプロテクトが設定されている場合、およびカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は消去できません。消去するには、プロテクトを解除するかライトプロテクトシールをはがしてから操作してください。(はがしたライトプロテクトシールは再使用しないでください。)

液晶モニタ

1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタン(IOI)を押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影した最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 十字ボタンで消去したい画像を選択します。

1枚表示(P.34)でも、一覧表示(P.35)でも消去できます。

3 十字ボタンの ▽ (🗑)を1秒以上押し続けます。

1コマ消去画面が表示されます。

中止するには、◁ を押します。

4 △ ▽ を押して「消去」を選択し、OKボタンを押します。

「ピッ」という音がして画像が消去されます。

すべての画像を消去するには

カードのすべての画像を一度に消去することもできます(P.107)。

- 消去中にカードカバーを開けたり、電池やACアダプタ、またはカードを抜くと、カード内のデータが破壊されることがあります。

- プリント予約(P.101)が設定されているカードでは、消去時間が長くなる場合がありますが、故障ではありません。

- 画像を消去しても、撮影可能枚数が増えないことがあります。

こんな方法でプリントできます

カード内の画像は、以下の方法でプリントできます。

DPOF対応プリンタやラボを使う

プリントしたい画像を予約しておくと、カードをDPOF対応プリンタに取り付けたり、DPOF対応ラボ（写真店、現像所）に持ち込んだとき、プリントする画像をその場で指定する必要がありません。ただし、プリント枚数は予約できません。

詳しくは、6章の「DPOF対応プリンタやラボでプリントする」をお読みください（P.101）。

DPOFについて

DPOFとは、デジタルカメラの自動プリント情報を記録するフォーマット（Digital Print Order Format）のことです。

プリントしたい画像を指定したり、撮影日時を入れる指定をすると、その情報がカードに記録されます。DPOF対応サービスを行っているラボや家庭用のDPOF 対応プリンタで、簡単にプリントできます。

専用プリンタ（別売）を使う

専用プリンタP-400/P-200/P-330Nを使うと、プリンタ側で簡単なボタン操作をするだけで画像をプリントすることができます。

詳しくは､各製品の取扱説明書をお読みください。

パソコンに接続したプリンタを使う

パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。（CAMEDIA Master を使ってもプリントできます。）お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。

画像をパソコンに取り込む方法については、 7章をお読みください。

プリントの方法は、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

注意

- カメラのUSB端子には、P-400/P-330N/P-330を接続できません。
- カメラのビデオ出力端子にP-330N/P-330を接続してプリントした場合、プリンタの性能を充分に発揮できません。

- ほかのDPOF機器で記録した自動プリント情報は、このカメラでは変更できません。記録した機器で変更してください。
- ほかの機器で自動プリント情報を記録したカードに、このカメラで新たにプリント予約を行うと、ほかの機器で行った記録が削除されることがあります。
- プリンタまたはラボによっては、日付や時刻がプリントされないことがあります。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へのご注意

DPOFを利用せずに写真店などのプリントサービスで画像のプリントを依頼される場合は必ずファイルNo.（P.5、P.105）でプリントするコマを指定して下さい。

コマNo.で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

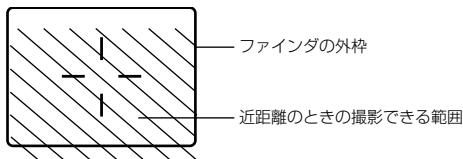
4

上手に撮影しましょう

ピント合わせやフラッシュの使い分けなど、便利な機能のいくつかは十字ボタンで簡単に設定できます。ここでは、あらかじめ知っておくと撮影に役立つ機能を説明します。
何回か撮影して２章の操作に慣れたら、お好みのページからお読みください。

覚えておきましょう

距離とファインダのズレ

ファインダの外枠は、実際に撮影できる範囲、つまり撮影した画像と一致しないことがあります。

遠くの景色を撮影するときは、ファインダの外枠と撮影できる範囲がほぼ一致します。しかし、被写体までの距離が近づくにつれて、撮影できる範囲は下にズレます。ズームレバーをT（望遠）側へ引くと、ズレはさらに大きくなります。

近距離で撮影するときは、液晶モニタを使うと正しい範囲を撮影できます。しかし、液晶モニタを使用するとカメラがぶれやすくなり、また電池の消耗が早くなります。

- 特に近く（約20cm～約80cm）の被写体を撮影するときは、マクロ機能を使用します（P.49）。

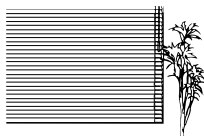
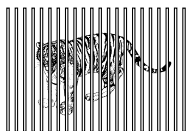
ピントの合わせにくいもの

ほとんどの被写体では、カメラが自動的にピントを合わせる（オートフォーカス）のでピント合わせを気にする必要はありません。

しかし、次のページの1～3のような条件ではピントが合わない場合があり、そのときはファインダ横の緑ランプが点滅して知らせます。また、4、5のような被写体では、ピントが合ったことを示す緑ランプが点灯しても、実際にはピントが合っていない場合があります。6のような被写体では、被写体ではなく背景にピントが合います。

1 コントラストのない被写体

2 画面中央に極端に明るいものがある被写体

3 縦線のない被写体

4 遠いものと近いものが混在する被写体

5 動きの速い被写体

6 AFターゲットマークから外れた被写体

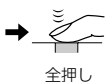
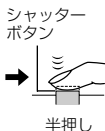
これらの場合は、被写体と同距離にあるものであらかじめピントを合わせる（フォーカスロック：P.46）か、無限遠にピントを固定して（ワンタッチフォーカス：P.47）撮影してください。

3のような被写体では、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックしたあと、横位置に戻して撮影することもできます。

ピントが合わせにくいときは

ピントを合わせてから構図を決めます

フォーカスロック

ピントを合わせたいものがAFターゲットマークから外れる（中央にない）ときは、次の操作でピントを合わせます。これをフォーカスロックといいます。

ファインダ

1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。

2 ファインダーをのぞき、ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。

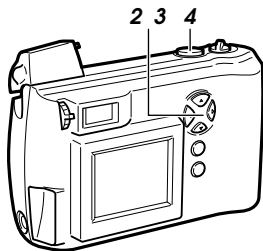
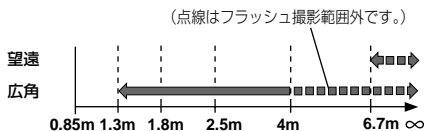
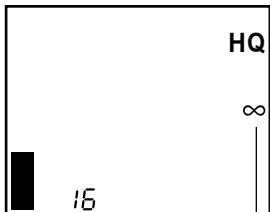
3 シャッターボタンを、ファインダ横の緑ランプが点灯するまで半押しします。

ピントが合い、同時に露出も固定されます。

4 シャッターボタンを半押ししたまま撮影したい構図に変え、シャッターボタンを全押しします。

ピントを遠距離に固定する

ワンタッチフォーカス

ピントを遠距離（∞）に固定できます。風景の撮影でピントの合いにくいときに利用します。

液晶モニタ

1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。

2 十字ボタンの △ を押します。

液晶モニタが点灯します。

3 液晶モニタに∞マークが表示されるまで、十字ボタンの △ を何度か押します。

4 撮影します。

1 枚撮影すると、ワンタッチフォーカスは自動的に解除されます。

ワンタッチフォーカスを中止するには

∞マークやマクロマーク（🌷）が消えるまで、十字ボタンの△を何度か押します。

電源を切るとワンタッチフォーカスは解除されます

電源を切っても解除されないようにするには、撮影メニューの「設定クリア」を「オフ」に設定してください（P.89）。

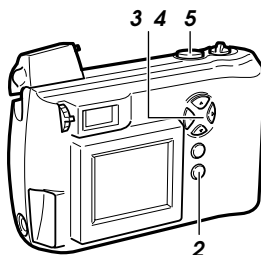
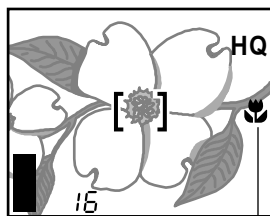
ただし、「オフ」に設定した場合も、撮影すると解除されます。

近くのものを撮影しましょう

被写体に近づいて大きく撮影するときは、マクロ機能を使います。
被写体までの距離を約20cm～約80cmの範囲に保ってください。範囲外で撮影すると、ピントと露出が合わないことがあります。

被写体までの最短距離（約20cm）の目安

望遠のとき：ズームレバーをT(望遠)側に引きます
約8cm×約6cmの被写体が、液晶モニタの画面いっぱいに表示されます。

広角のとき：ズームレバーをW(広角)側へ押します
約22cm×約17cmの被写体が、液晶モニタの画面いっぱいに表示されます。

液晶モニタ

マクロマーク

1 レンズバリアを開けます。
撮影モードで電源が入ります。

2 液晶モニタボタン( )を押します。
液晶モニタが点灯します。

3 十字ボタンの △（ ）を押します。

4 液晶モニタにマクロマークが表示されるまで、十字ボタンの △ を何度か押します。

5 液晶モニタで構図を決めて撮影します。

マクロを解除するには

マクロマークや ∞ マークが消えるまで、十字ボタンの △ を何度か押します。

電源を切るとマクロは解除されます

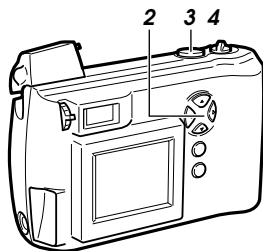
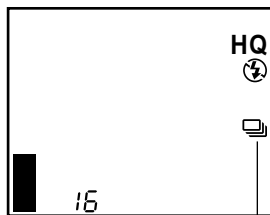
電源を切っても解除されないようにするには、撮影メニューの「設定クリア」を「オフ」に設定してください（P.89）。

- フラッシュを使用すると影が目立つ場合があります。

- マクロを使うときは、ファインダの外枠が撮影できる範囲から大きくズレます（P.44）。必ず液晶モニタを表示し、確認しながら撮影してください（P.26）。
- 撮影後は、撮影した画像を液晶モニタなどで再生して確認してください。

連写しましょう

連写機能を使うと、シャッターボタンを押している間、静止画を最大45枚（画質モードSQの場合）まで連続して撮影できます。

連続した静止画のなかから、好みの静止画を見つけられます。動きの速い被写体の撮影に向いています。

液晶モニタ

1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。

2 十字ボタンの ▽ を押します。

液晶モニタが点灯し連写マークが表示されます。

連写マークが表示されないときは、表示されるまで ▽ を何度か押します。

3 構図を決めてシャッターボタンを全押しし、そのままにします。

連写を開始します。

フラッシュは発光しません。

4 シャッターボタンから指をはなします。

連写が終了します。

画質モードをSQにした場合、最大45枚まで連写できます。

45枚撮影するか、撮影可能枚数が0になると、連写は自動的に終了します。

連写を解除するには

連写マーク、セルフタイママーク（ ）、動画マーク（ ）が消えるまで、十字ボタンの ▽ を何度か押します。

電源を切っても連写は解除されます

電源を切っても解除されないようにするには、撮影メニューの「設定クリア」を「オフ」に設定してください（P.89）。

連写の画質モード

連写機能の使用中は、画質モードが変更されることがあります。

画質モードがTIFFの場合、連写機能の使用中は画質モードが自動的にHQになります。元の撮影モードに戻すと、画質モードも元に戻ります。

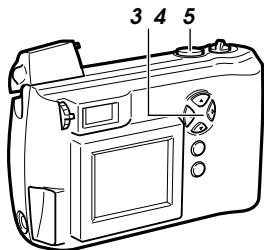
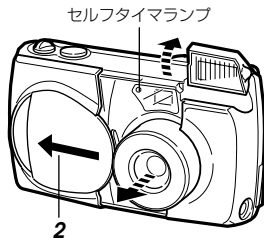
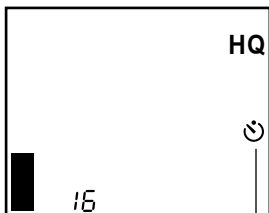
ただし、連写機能の使用中に画質モードを手動で変更すると、元の撮影モードに戻しても画質モードはそのままになります（P.81）。

注意

- 緑ランプの点滅中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ、電池、カードを抜くと、カード内のデータが破壊されることがあります。

- 連写可能な枚数は、画質モードやカードの撮影可能枚数によって変わります。
- 手ぶれを抑えるため、シャッター速度は最長1/30秒に制限されます。暗い被写体は通常より暗く写る場合があります。
- 撮影後、画像の記録（緑ランプの点滅）にしばらく時間がかかります。

セルフタイマを使いましょう

記念写真などを撮影するときにセルフタイマを使うと便利です。
カメラを三脚などにしっかりと固定してから撮影してください。

液晶モニタ

1 カメラを三脚などにしっかりと固定します。

2 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。

3 十字ボタンの ▽ ( ) を押します。

液晶モニタが点灯します。

4 液晶モニタにセルフタイママークが表示されるまで、十字ボタンの ▽ を何度か押します。

5 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。

カメラの前面のセルフタイマランプが10秒間点灯し、2秒間点滅したあとに撮影されます。

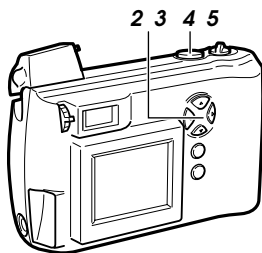
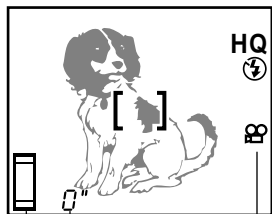
1枚撮影すると、セルフタイマは自動的に解除されます。

セルフタイマを中止するには

手順3のあとでセルフタイマを中止するには、十字ボタンの ▽ を押して、セルフタイママークを消します。また、カメラの電源を切っても中止できます。

セルフタイマランプの点灯中は、OKボタンを押すことでも中止できます。

動画を撮影しましょう

このカメラでは、静止画に加えて動画（15フレーム／秒）も撮影できます。動きを記録したい被写体は、動画で撮影しましょう。

液晶モニタ
（動画の撮影が自動的に停止した状態）

1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。

2 十字ボタンの ▽ を押します。

液晶モニタが点灯します。

3 液晶モニタに動画マークが表示されるまで、十字ボタンの ▽ を何度か押します。

液晶モニタに被写体が表示されます。

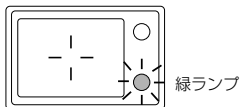
また、 マークが表示されます（P.60）。

4 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。

液晶モニタのメモリゲージの一番下が点灯し、撮影可能秒数が減少しはじめます。

フラッシュは発光しません。

メモリゲージ
→連続撮影秒数（次ページの表を参照）が過ぎると一番上まで点灯し、撮影は自動的に停止します。

撮影可能秒数
→あと何秒撮影できるかを示します。0 秒になると、撮影は自動的に停止します。

5 再び、シャッターボタンを全押しします。

動画の撮影が停止し、ファインダ横の緑ランプが点滅します。

緑ランプが消えたら、再び撮影できます。

撮影した動画は、液晶モニタに再生して確認できます（P.99）。

動画の画質モード

動画では、画像の大きさが違う2種類の画質モードがあります。

動画の画質モードは、静止画の画質モードによって決まります。変更するときは、いったん動画の撮影を解除し、静止画の画質モードを変更してください（P.81）。

静止画の設定値	画質モード	大きさ（記録画素数）	連続撮影秒数
TIFF	HQ	320×240 ピクセル	約16秒
SHQ			
HQ			
SQ	SQ	160×120 ピクセル	約70秒

動画の撮影を解除するには

動画マーク、連写マーク（ ）、セルフタイママーク（ ）が消えるまで、十字ボタンの ▽ を何度か押します。

電源を切ると動画の撮影は解除されます

電源を切っても元に戻らないようにするには、撮影メニューの「設定クリア」を「オフ」に設定してください（P.89）。

- 静止画に比べて、画質が粗くなる場合があります。
- 構図よりもやや狭い範囲が撮影されます。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 撮影中もズーム操作は可能ですが、ズーミングする速さは遅くなります。

注意
- 緑ランプの点滅中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ、電池、カードを抜くと、カード内のデータが破壊されることがあります。

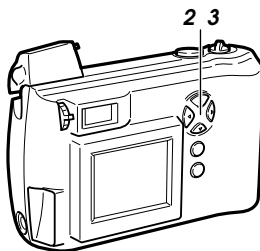
フラッシュを使い分けましょう

フラッシュモードの切り替えかた

撮影状況と目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。
ただし、連写（P.51）、動画の撮影（P.54）、パノラマ撮影（P.76）では、フラッシュは発光しません。
また、ズームレバーを操作すると、フラッシュを使える距離の範囲は変化します（P.27）。

電源を入れたときは「オート発光」に設定されています。ほかのフラッシュモードに変更すると、フラッシュモードのマークが液晶モニタに表示されます。

液晶モニタ

フラッシュモードマーク
（「オート発光」のときは
何も表示されない）

1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。

2 十字ボタンの▷（ϟ）を押します。

液晶モニタが点灯し、次のページの表のフラッシュモードマークが表示されます。

3 液晶モニタに設定したいフラッシュモードのマークが表示されるまで、十字ボタンの▷を何度か押します。

フラッシュモードについては、次のページを参照してください。

フラッシュモード

設定モード	機能・目的
オート発光（表示なし）	暗い時や逆光の時、自動的に発光します（P.59）。
赤目軽減発光	目が赤く写ってしまう現象を軽減します（P.59）。
強制発光	必ず発光させたいときに使います（P.60）。
発光禁止	暗いところでも発光させたくないときに使います（P.60）。
夜景	夜間撮影に便利です（P.61）。
夜景＋赤目軽減	夜景をバックにした人物撮影に適しています（P.61）。

電源を切ると「オート発光」に戻ります

電源を切っても元に戻らないようにするには、撮影メニューの「設定クリア」を「オフ」に設定してください（P.89）。

フラッシュを押さえないでください

フラッシュを指などで押さえると、フラッシュが発光しません。この場合は撮影した画像が暗くなります。

- ファインダ横のオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュは充電中です。撮影できません。いったんシャッターボタンから指をはなし、オレンジランプが消えてから撮影してください。
- フラッシュを使う場合、マクロ撮影（P.49）では、画像の一部が欠けたり光量ムラが発生することがあります。撮影後に、必ず液晶モニタで再生して確認してください。

オート発光

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。

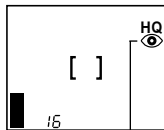
ファインダ

逆光の被写体を撮影するときは、被写体をAFターゲットマークに合わせて撮影してください。

赤目軽減発光

人物を撮影すると目が赤く写ることがあります。赤目軽減発光にして撮影すると、この現象が起こりにくくなります。

瞳が赤く写ります

液晶モニタ

赤目軽減発光マーク

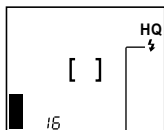
本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光のため、シャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。

次のときに赤目軽減の効果が現れにくくなります

- 被写体がフラッシュを正面から見ていないとき
- 被写体が予備発光を見ていないとき
- 被写体までの距離が遠い場合
- 被写体の個人差

強制発光

必ず発光させたいときに使います。

液晶モニタ

強制発光マーク

強制発光モードでは、フラッシュは常に発光します。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影に使います。

非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

発光禁止

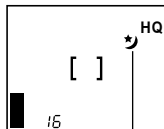
美術館などのフラッシュを使えない場所での撮影や、夕焼けや夜景の撮影に使います。

液晶モニタ

発光禁止マーク

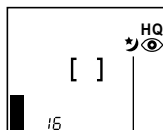
暗い場所では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、三脚のご使用をお勧めします。動く被写体はぶれて写ります。

夜景

夜景をバックに被写体を撮影するときに適しています。

撮影のはじめにフラッシュを発光させ、シャッター速度を最長 1/2 秒まで遅くして周囲の状況を捉える撮影方法です。背景がぶれるのを防ぐため、三脚のご使用をお勧めします。動く被写体はぶれて写ります。

フラッシュが必要な時に自動的に発光します。

夜景＋赤目軽減

夜景をバックに人物を撮影するときに適しています。

夜景と赤目軽減発光の両方を行います。それぞれのページを参照してください。

シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、三脚のご使用をお勧めします。動く被写体はぶれて写ります。

フラッシュが必要な時に自動的に発光します。

5

撮影の上級テクニック

撮影に役立つ機能が、撮影メニューにまとまっています。次の「撮影メニューの使いかた」で操作を理解した上で、各機能のページをお読みください。

撮影メニューの使いかた

撮影メニューでできること

撮影メニューを使うと、画像の写り具合を調節したり、画質モードを変更するなど、撮影に関するさまざまな機能を利用できます。
撮影メニューは、4つのグループに分かれています。

☞**メニューの操作方法については、「撮影メニューの操作」(P.66)を参照してください。**

グループ	項目	目的	ページ
撮影	測光	明るさを測る範囲を変更できます。	P.68
	露出補正	画像の明るさを、補正できます。	P.70
	ISO 感度	高感度に設定すると､より暗い所で､速いシャッタースピードで撮影できます。	P.72
	デジタルズーム	最大 9 倍ズームで撮影できます。	P.74
	パノラマ撮影	パノラマ写真を撮影できます。	P.76
画像	ホワイトバランス	色合いの自動調節をやめ、晴天/曇天/電球/蛍光灯用の設定に変更できます。	P.79
	画質	画像の大きさと画質モードを変更し、撮影可能枚数を増減できます。	P.81
	シャープネス	被写体の輪郭を、よりくっきりと強調して撮影できます。	P.83
	コントラスト	メリハリの効いた硬い画像にするかどうかを選択できます。	P.84
カード	カードセットアップ	カードをフォーマット(初期化)します。必要なときだけ行ってください。	P.107
設定	レックビュー	撮影直後のカード書込中に、撮影した画像を表示できます。	P.85
	ファイル名メモリー	画像ファイルのファイル名の付けかたを選択できます。	P.86
	設定クリア	すべての項目で電源を切っても設定を保持するようにできます。	P.89
	ビープ音	警告音を鳴らすか鳴らさないか選択できます。	P.90
	日時設定	日時を設定できます。	P.12
	モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整できます。	P.91

電源を切ったあとの設定

設定を変更できる項目には、電源を切ったあとも設定を保持しているものと、購入時の設定に戻るものがあります。

下の表は、変更できる項目と、その設定です。購入時の設定は（ ）で表されています。

グループ	項目	設定	記憶
撮影	測光	**（ESP）**　スポット	△
	露出補正	+2.0　+1.5　+1.0　+0.5　**(0)**　-0.5　-1.0　-1.5　-2.0	△
	ISO 感度	**（オート）**　100　200　400	△
	デジタルズーム	**（オフ）**　オン	△
画像	ホワイトバランス	**（オート）**	△
	画質	TIFF　SHQ　**（HQ）**　SQ	△
	シャープネス	ハード　**（標準）**　ソフト	△
	コントラスト	ハイ　**（標準）**　ロー	△
設定	レックビュー	**（オフ）**　オン	○
	ファイル名メモリー	**（リセット）**　オート	○
	設定クリア	**（オン）**　オフ	○
	ビープ音	**（オン）**　オフ	○
	日時設定	**(2001 年1 月1 日0 時00 分)**	○
	モニタ調整	**（調整バーの中央に設定されています）**	○

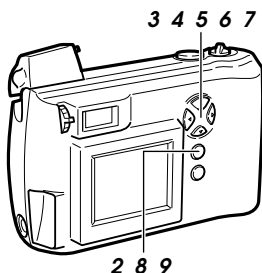
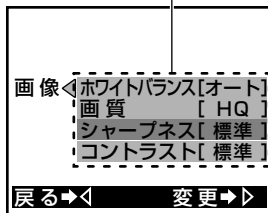
表中の「記憶」欄の記号は、項目ごとの下記の特徴を表しています。

○ 再び変更するまで、設定を保持しています。

△ 電源を切ると購入時の設定に戻りますが、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にすると設定を保持するようになります（P.89）。
ただし、電池を抜くと購入時の設定に戻ります。

注意

- **カメラから電池を抜いて放置したり、電池が切れているとすべての設定が購入時の状態に戻ります。**

撮影メニューの操作

1 レンズバリアを開きます。

撮影モードで電源が入ります。

2 メニューボタン（▤）を押します。

液晶モニタに撮影メニューが表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押してグループ（撮影/画像/カード/設定）を切り替えます。

選択したグループが緑色の文字になります。
（左図の例では、画像グループを選択しています。）
このとき、現在の設定を確認できます。設定は、項目の右隣に［ ］で表示されます。

4 十字ボタンの ▷ を押します。

項目の1つが緑色の文字になります。

5 十字ボタンの △ ▽ を押して設定する項目に合わせます。

選択した項目が緑色の文字になります。
（左図の例では、「シャープネス」を選択しています。）

7

シャープネス
ハード
標準
ソフト
戻る➡◁　設定➡OK

9

画像◁ホワイトバランス[オート]
画質　[HQ]
シャープネス[ハード]
コントラスト[標準]
戻る➡◁　変更➡▷

6 十字ボタンの▷を押します。

その項目の設定画面が表示されます。

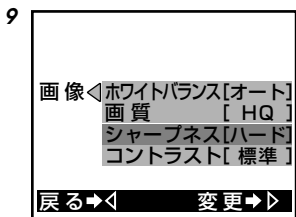
7 十字ボタンの△ ▽を押して目的の設定に合わせます。

選択した設定が緑色の文字になります。
(左図の例では、「ハード」を選択しています。)

8 OKボタンを押します。

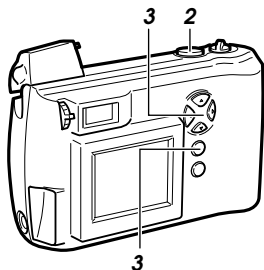
設定が変更され、メニューの最初の画面が表示されます。

9 設定を変更したことを確認し、OKボタンを2回押します。

設定が記憶され、メニューが消えます。

変更をキャンセルするには

手順8で、OKボタンの代わりに十字ボタンの◁を押します。

一時的に設定を変更して撮影するには

撮影中に一時的に設定を変更するには、次の手順で操作します。

1 手順1～7を行います。

2 メニューを表示したまま撮影します。

その時に選択している設定で撮影されます。

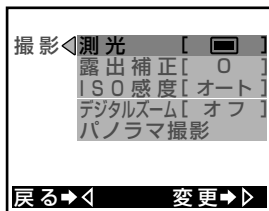
3 十字ボタンの◁を2回押し、OKボタンを押します。

元の設定に戻り、撮影メニューが消えます。

中央部の明るさを優先する

逆光のときは、通常の測光（デジタルESP測光）では被写体が暗くなる場合があります。このようなときは、スポット測光に変更します。背景の光に影響されることなく、中央部の明るさに合わせて撮影できます。

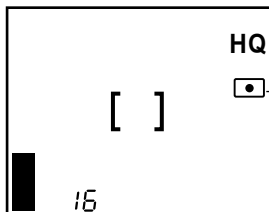
☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」（P.66）をお読みください。**

撮影グループの項目

「測光」に合わせて ▷ を押すと、設定画面が表示される

設定について

ESP（デジタルESP測光）：電源を入れたときの設定
中央部と周辺部を別々に測光して、最適な露出にします。

スポット（スポット測光）
中央部のみを測光します。逆光などで被写体が暗くなるとき、背景の光などに影響されることなく被写体に適正な露出を得られます。

液晶モニタの表示

「スポット」に変更すると、スポット測光マークが表示される

スポット測光での撮影方法

ファインダ

1 ファインダをのぞき、撮影したいものにオートフォーカスマークを合わせます。

2 シャッターボタンを、ファインダ横の緑ランプが点灯するまで半押しします。

ピントが合い、同時に露出も固定されます。

3 シャッターボタンを半押ししたまま撮影したい構図に変え、シャッターボタンを全押しします。

電源を切ると設定は元に戻ります

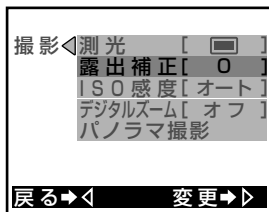
電源を切ると、「ESP」に戻ります。

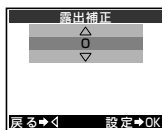
電源を切ったあとも設定を保持させておくには、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にします（P.89）。

画像の明るさを補正する

露出は撮影時に自動的にセットされます。セットされた露出に対して、−2.0〜＋2.0（0.5段刻み）で補正できます。
露出が自動の場合は、白の多い被写体は暗く、黒の多い被写体は明るく写りがちです。そこで白い被写体を白く表現したいときは＋の補正を、黒い被写体を黒く表現したいときには−の補正を行うと効果的です。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」（P.66）をお読みください。**

撮影グループの項目

「露出補正」に合わせて ▷ を押すと、設定画面が表示される

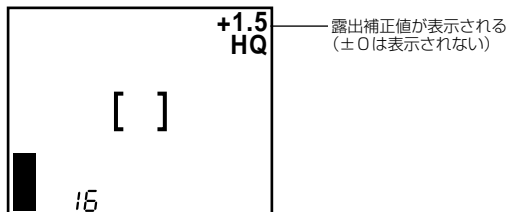
設定について

＋2.0：周囲が明るく被写体が
＋1.5　暗く写ってしまうとき
＋1.5
＋1.0
＋0.5

+2.0

±0　：（電源を入れたときの設定）

±0

−0.5：周囲が暗く被写体が
−1.0　明るく写り、細部が
−1.5　不鮮明なとき
−2.0

液晶モニタの表示

電源を切ると設定は元に戻ります

電源を切ると、「±0」に戻ります。

電源を切ったあとも設定を保持させておくには、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にします（P.89）。

- 露出補正をすると、液晶モニタに表示される画像の明るさも変わります。暗い被写体では変化が判りにくくなりますので、その時は撮影した画像を再生してご確認ください。
- フラッシュを使用すると、狙いどおりに補正できないことがあります。

- 被写体の周囲が極端に明るいときや、極端に暗いときは、露出補正では補正しきれません。

ISO感度を固定する

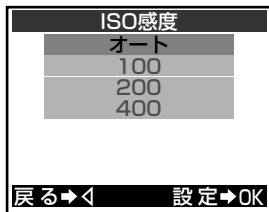
このカメラには、被写体の明るさに応じてISO感度を自動的に調節する機能があります。

ただし、撮影の目的によっては、自動的に調節しないほうが良い場合もあります。そのようなときは、ISO感度の設定を変更してください。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」(P.66)をお読みください。**

撮影グループの項目

「ISO感度」に合わせて ▷ を押すと、設定画面が表示される

設定について

オート	自動調節（電源を入れたときの設定）
100	標準 綺麗な画像を得られますが、動きの速いものはぶれて写り、手ぶれを起こすこともあります。
200	やや高感度 100と400の中間にしたいときに選択します。
400	高感度 動きの速い被写体または低照度下での撮影に向きます。

※ ISO感度の数値は、フィルム式カメラ（銀塩写真）と比較したおおよその数値です。

※ ISO感度を上げる（設定値で大きな数値を選択する）と、画質は低下します。

※ 選んだ設定が最適かどうか、撮影後に必ず液晶モニタで画像を再生して確認してください。

※ ISO感度を低く設定するときは、三脚とセルフタイマを併用すると手ぶれを避けられます（P.53）。

液晶モニタの表示

電源を切ると設定は元に戻ります

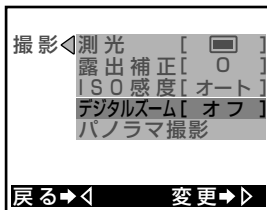
電源を切ると、「オート」に戻ります。

電源を切ったあとも設定を保持させておくには、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にします（P.89）。

さらに拡大して撮影する

普通の望遠（光学ズーム）で被写体を十分に拡大できないときは、デジタルズームを使用します。9倍までの望遠で撮影できるようになります。
デジタルズームの範囲（3倍〜9倍）では、画質が粗くなります。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」（P.66）をお読みください。**

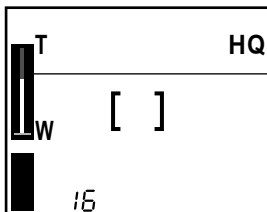
撮影グループの項目

「デジタルズーム」に合わせて▷を押すと、設定画面が表示される

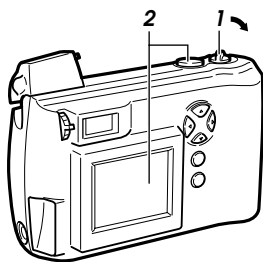
設定について

オフ（電源を入れたときの設定）
光学ズームで最大3倍の望遠になります。

オン
3倍の望遠までは光学ズームのみを使い、3倍から9倍まではデジタルズームを使います。

「オン」に設定すると液晶モニタが点灯します。

液晶モニタの表示

デジタルズームの範囲（3倍〜9倍）が赤く表示される
（ズームレバーの操作中に表示される）

デジタルズームでの撮影方法

1 ズームレバーをT（望遠）側に引きます。

2 液晶モニタで構図を決めて撮影します。

ファインダの表示は３倍の望遠のままです。

液晶モニタの表示を消している間はデジタルズームを使用できません。最大３倍の光学ズームのみの望遠になります。

倍率が高いと小さなぶれも画像に現れます。三脚とセルフタイマを併用すると手ぶれを避けられます。

電源を切ると設定は元に戻ります

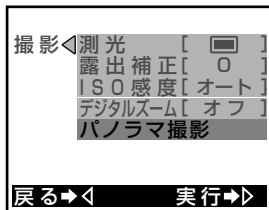
電源を切ると、「オフ」に戻ります。
電源を切ったあとも設定を保持させておくには、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にします（P.89）。

パノラマ写真を作る

オリンパスの標準スマートメディア（カード）にはパノラマ合成撮影の機能がついていますので、パノラマ撮影を簡単に楽しめます。

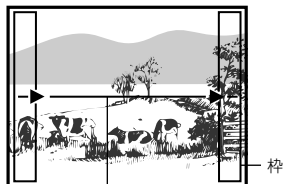
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像をCAMEDIA Master（別売）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」（P.66）をお読みください。**

撮影グループの項目

「パノラマ撮影」に合わせて ▷ を押すと、左下の画面が表示される

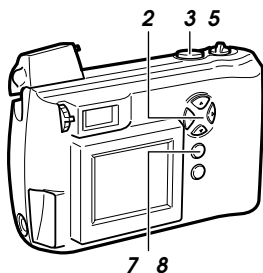
パノラマ写真の撮影方法

「パノラマ撮影」に合わせて十字ボタンの ▷ を押すと、つなげる方向を示す矢印と枠が液晶モニタに表示されます。

液晶モニタ（パノラマ設定画面）

1 カメラを三脚に固定します。

2 十字ボタンで、つなげる方向を指定します。

▷ ：次の画像を右につなげます。
◁ ：次の画像を左につなげます。
△ ：次の画像を上につなげます。
▽ ：次の画像を下につなげます。

つなげる方向を示す矢印が、指定した方向に変わります。つなげる方向を上または下に指定すると、液晶モニタの上下に枠が表示されます。

3 撮影します。

このとき右側の枠の中にある被写体を覚えておいてください。

4 右につなげる場合、撮影したときに右端の枠の中にあった被写体を、左側の枠の中に納めるように、カメラの向きを変えます。

下の図を参照してください。

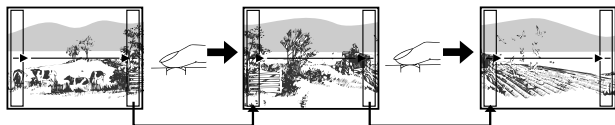
5 撮影します。

6 最大9回（合計10枚）まで、手順4～5を繰り返せます。

7 OKボタンを押します。

撮影メニューに戻ります。

8 撮影メニューが消えるまで、OKボタンを何度か押します。

カメラのみでは、パノラマ合成はできません。パノラマ合成画像を作成するにはCAMEDIA Masterが必要です。合成画像の作りかたについては、CAMEDIA Masterのオンラインヘルプをお読みください。

右につなげる指定をした場合は、前に撮影した画像の右端を左側の枠に入れて撮影します。指定した方向と逆の左につなげると、パノラマ合成画像を作成できません。

電源を切ると元に戻ります

パノラマの撮影中に電源を切ると、次に電源を入れたときは通常の撮影に戻ります。

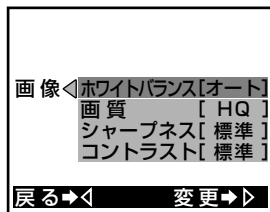
- ピント・露出・ホワイトバランスとも1枚目で決定されます。2枚目以降の撮影条件は変更できません。
- 手順4では、カメラの向きに注意してカメラの向きを変えてください。前に撮影した画像を枠の中に入れていない場合や、反対の枠に入れた場合は、パノラマ合成画像を作成できません。
- パノラマモードでは、フラッシュは発光しません。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うと、合成するときにパソコンがメモリ不足になることがあります。SQモードでの撮影をお勧めします。
- 画質モードが「TIFF」のときにパノラマ撮影をすると、SHQモードで記録されます。

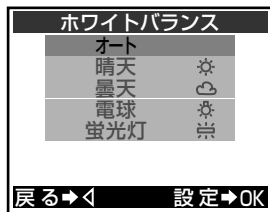
色合いを調節する

このカメラは、オートホワイトバランスを採用しているので、特別な操作をしなくても自然な色合いで被写体を撮影できます。

ただし、天候や照明によっては思い通りの仕上がりになりにくいことがあります。そのようなときは、ホワイトバランスの設定を変更してください。

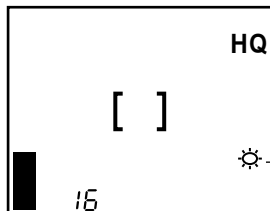
☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」(P.66)をお読みください。**

画像グループの項目

「ホワイトバランス」に合わせて ▷を押すと、設定画面が表示される

設定について

オート	電源を入れたときの設定（通常はオートでお使いください）
☼	晴天の屋外で撮影
☁	曇天の屋外で撮影
電球マーク	電球の灯りで撮影
蛍光灯マーク	蛍光灯の灯りで撮影

※ 特殊な光源下では対応できない場合があります。

※ 選んだ設定が最適かどうか、撮影後に必ず液晶モニタで画像を再生して色を確認してください。

液晶モニタの表示

電源を切ると設定は元に戻ります

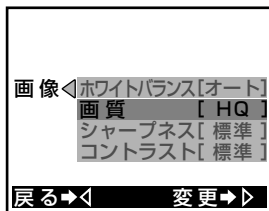
電源を切ると、「オート」に戻ります。

電源を切ったあとも設定を保持させておくには、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にします（P.89）。

画質優先か枚数優先か

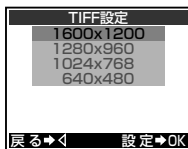
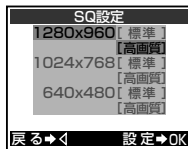
画質優先か枚数優先かによって、画質を4種類のなかから選択できます。高画質を選択するほどきれいに撮影できます。画質を抑えるほど多くの枚数を撮影できます（P.21）。

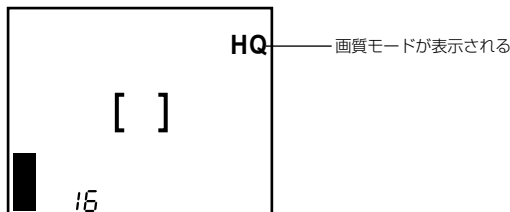
☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」（P.66）をお読みください。**

画像グループの項目

「画質」に合わせて▷を押すと、設定画面が表示される

設定について

画質	設定	圧縮率	大きさ（記録画素数）
高	TIFF	なし	1600×1200～640×480
↕	SHQ	低い	1600×1200
	HQ	高い	1600×1200
標準	SQ	高い／低い	1280×960～640×480

※電源を入れたときは、「HQ」に設定されています。

「TIFF」では記録画素数を変更できます。

「SQ」では記録画素数と圧縮率を変更できます。

液晶モニタの表示

画質の選びかた

目的によって次のように選択すると簡単です。

- メールに添付する → SQ
- プリントしたりパソコンで再生する → HQやSHQ
- パソコンで加工する → TIFF

高画質に設定して使用する際の諸注意

高画質になるほど、撮影直後の待ち時間（緑ランプの点滅時間）と再生時の表示までの時間が長くなり、撮影可能枚数は少なくなります。特に、「TIFF」では極端に時間がかかり、撮影枚数は少なくなります。

高画質になるほど、画像をカードへ記録する時間（緑ランプの点滅時間）が長くなります。緑ランプの点滅中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ、電池、カードを抜くと、カード内のデータが破壊されることがあります。
また、カードの撮影可能枚数が少ないときに高画質に変更すると、左の画面が表示されることがあります。このときはカードの空き容量がたりません。別の画質モードを選択してください。

電源を切ると設定は元に戻ります

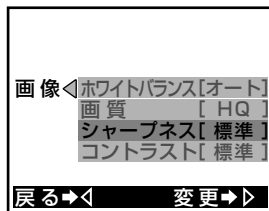
電源を切ると、「HQ」に戻ります。

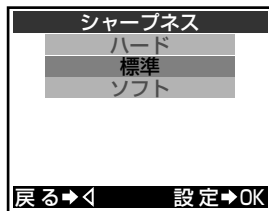
電源を切ったあとも設定を保持させておくには、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にします（P.89）。

画像をよりシャープに撮影する

被写体の輪郭を強調して普通に撮影したときよりもくっきりとした画像にしたいときは、シャープネスの設定値を「ハード」にします。
画像をパソコンで加工するときは「ソフト」にします。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」(P.66)をお読みください。**

画像グループの項目

「シャープネス」に合わせて ▷ を押すと、設定画面が表示される

設定について

ハード
より鮮やかな印象になります。ただし、画像によっては荒れて見えることがあります。

標準（電源を入れたときの設定）
プリントや鑑賞に適しています。

ソフト
パソコンでの加工に適しています。

電源を切ると設定は元に戻ります

電源を切ると、「標準」に戻ります。

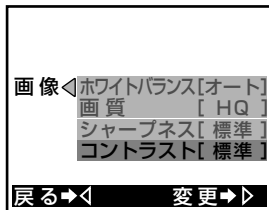
電源を切ったあとも設定を保持させておくには、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にします（P.89）。

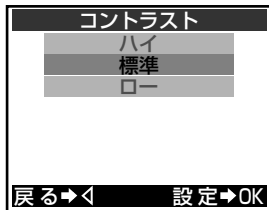
メリハリが効いた画像を撮影する

メリハリが効いた（硬い画質の）画像を撮影したいときは、コントラストの設定を「ハイ」にします。

画像をパソコンで加工するときは「ロー」が適しています。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」（P.66）をお読みください。**

画像グループの項目

「コントラスト」に合わせて▷を押すと、設定画面が表示される

設定について

ハイ

標準よりもメリハリが効いた画像になります。ただし、明るい部分が白く飛んだり、暗い部分が黒くつぶれたりしやすくなります。

標準（電源を入れたときの設定）

プリントや鑑賞に適しています。

ロー

パソコンでの加工に適しています。メリハリは少なくなります。

電源を切ると設定は元に戻ります

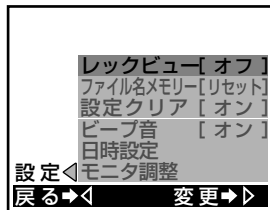
電源を切ると、「標準」に戻ります。

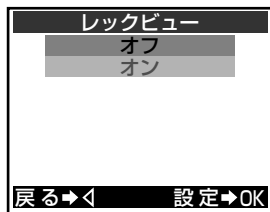
電源を切ったあとも設定を保持させておくには、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にします（P.89）。

撮影直後に画像を確認する

撮影してすぐに画像を確認したいときは、レックビューを「オン」に設定します。撮影するたびに、撮影した画像が液晶モニタで再生されます。
レックビューの設定は、電源を切ったあとも保持されます。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」(P.66)をお読みください。**

設定グループの項目

「レックビュー」に合わせて ▷ を押すと、設定画面が表示される

設定について

オフ（購入時の設定）
液晶モニタが点灯しているときは、レンズを通して見ている被写体が表示されます。（撮影直後のみ、画面が真っ暗になります）

オン
撮影後、撮影した画像が再生されます。しばらくすると、レンズを通して見える被写体に戻ります。

液晶モニタを消しているときは、撮影後に液晶モニタが点灯して画像を再生し、しばらくすると消えます。

レックビューで画像を再生中も撮影できます

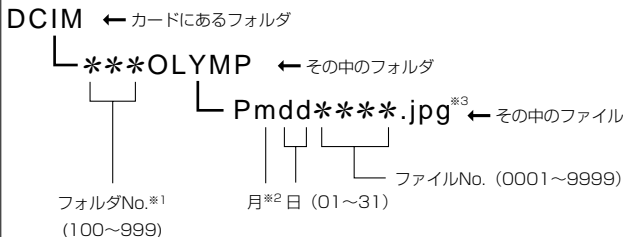
液晶モニタに画像がレックビューで再生されていても、ファインダ横の緑ランプが消えていれば撮影できます。

ファイル名のつけかたを変更する

撮影した画像はファイルとして記録されます。そのファイルに名前をつけるルールを変更することができます。
設定は、電源を切ったあとも保持されます。

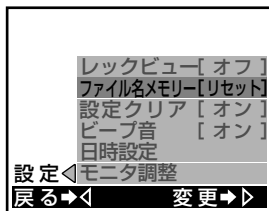
☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」(P.66)をお読みください。**

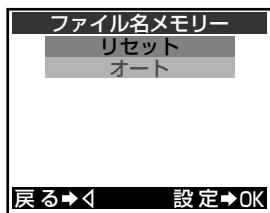
ファイル名とフォルダ名

画像のファイル名と画像が入るフォルダ名は、それぞれ下記のように半角英数字でつけられます。ファイルNo.とフォルダNo.はカメラが自動的につけます。

※1 ファイルNo.が9999になると、次のファイルNo.は0001に戻ります。このとき、No.が1増加した新しいフォルダが作成され、ファイルはその中に入ります。

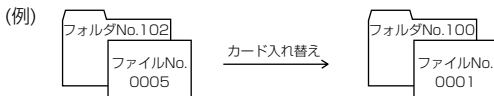
※2 ファイル名の「月」の表記は、1月〜9月は1〜9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

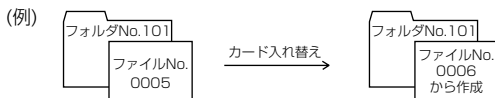
※3 一般の静止画はjpg、TIFFで撮影した静止画はtif、動画はmovになります。

設定グループの項目

「ファイル名メモリー」に合わせて▷を押すと、設定画面が表示される

設定について

リセット（購入時の設定）

カードを入れ替えたときに、フォルダNo.、ファイルNo.共にはじめに戻ります。

(例)

オート
カードを入れ替えたときに、フォルダNo.は変わりません。パソコンに画像をフォルダごとコピーしたときに、上書きコピーで同じフォルダに画像を集めることができます。
(ただし、Mac OSでは、古いフォルダにある画像は消えてしまいます。ご注意ください)。

ファイルNo.は、前に使っていたカードに最後に記憶された番号の次から始まります。

(例)
複数のカードにまたがって大量に撮影をしても、ファイルNo.が重複しません。ただし9999枚以上撮影すると0001に戻ります。

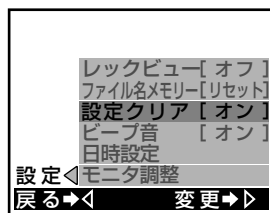
• フォルダNo.が999、ファイルNo.が9999に達すると、カードに残量があっても撮影できなくなります。このときはカードを交換してください。カードを交換すると撮影できるようになります。設定に関わらず、フォルダNo.が100でファイルNo.が0001の画像ファイルから記録されます。

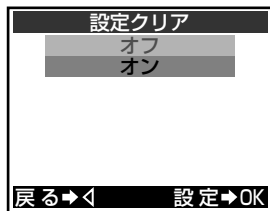
• セットしたカードにすでにファイルがあり、そのファイルのファイルNo.が取り外したカード内のファイルのファイルNo.よりも大きい場合、新たに撮影したファイルのファイルNo.は、カード内の最も大きいファイルNo.の続きになります。
• パソコンなどでファイル名やフォルダ名を変更すると、カメラで再生できない場合があります。

電源を切っても設定を残すには

「電源を切ったあとの設定」(P.65、P.95)の表中の「記憶」欄が△の項目は、電源を切ると購入時の設定に戻ります。「オフ」に変更すると、これらの設定を電源を切っても保持するようになります。
また、再生メニューでも設定できます。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」(P.66)をお読みください。**

設定グループの項目

「設定クリア」に合わせて▷を押すと、設定画面が表示される

設定について

オフ

メニューのすべての項目で、設定を保持します。

フラッシュ、ワンタッチフォーカス、マクロ、連写、動画の設定も保持します。
ただし、電池を抜くと、P.65とP.95の「記憶」欄が△の項目は購入時の状態に戻ります。

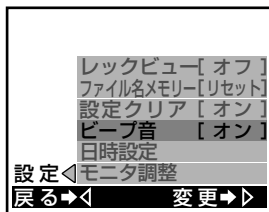
オン(購入時の設定)

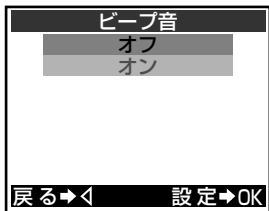
P.65とP.95の「記憶」欄が○の項目のみ、設定を保持します。

警告音を鳴らさない

結婚式の撮影や動物の撮影など、カメラの警告音が撮影のさまたげになるときには、警告音を鳴らさないように設定することができます。

設定は、電源を切ったあとも保持されます。また、再生メニューでも設定できます。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」(P.66)をお読みください。**

設定グループの項目

「ビープ音」に合わせて ▷ を押すと、設定画面が表示される

設定について

オフ
警告音は鳴りません

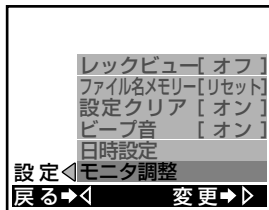
オン
操作によって、警告音が鳴ります

液晶モニタの明るさを調節する

液晶モニタの明るさを調節できます。

設定は、電源を切ったあとも保持されます。また、再生メニューでも設定できます。

☞ **操作方法は、「撮影メニューの操作」(P.66)をお読みください。**

設定グループの項目

「モニタ調整」に合わせて ▷ を押すと、設定画面が表示される

設定について

液晶モニタの被写体を見ながら、この線を上下に動かして調節する

＋側へ調節（ △ ボタンを押す）
明るくなる

−側へ調節（ ▽ ボタンを押す）
暗くなる

設定を終えたら、OK ボタンを押して設定を記憶させます。

6

再生の上級テクニック

撮影した動画を再生したり、画像を順番に再生するには、再生メニューを利用します。次の「再生メニューの使いかた」で操作を理解した上で、各機能のページをお読みください。

再生メニューの使いかた

再生メニューでできること

静止画を順番に自動再生したり、動画を再生するには、再生メニューを使用します。

☞ **メニューの操作方法については、「再生メニューの操作」（P.96）を参照してください。**

グループ	項目	目的	ページ
再生	自動再生※1	画像を自動的に順に再生できます。	P.98
	動画再生※2	動画を再生できます。	P.99
	プリント予約	DPOF対応のラボに持ち込む前に、プリントする画像を予約できます。	P.101
	回転再生	カメラを縦位置にして撮影した画像を、見やすいように回転して再生できます。画像ごとに指定できます。	P.104
	画像情報表示	撮影時の情報を、液晶モニタに表示するか表示しないかを選択できます。	P.105
	編集	色を変えた画像や小さい画像を作成できます。	P.106
カード	カードセットアップ		
	全コマ消去	プロテクトした画像を残して、すべての画像を消去できます。	P.107
	フォーマット	カードをフォーマット（初期化）します。必要なときだけ行ってください。	P.108
設定	インデックス表示	画像のインデックス表示のときに、画面に並べる画像の数を変更できます。	P.110
	設定クリア	すべての項目で電源を切っても設定を保持するようにできます。	P.89
	ビープ音	警告音を鳴らすか鳴らさないか選択できます。	P.90
	日時設定	日時を設定できます。	P.12
	モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整できます。	P.91

※1：静止画を液晶モニタに表示しているときのみ、再生メニューに表示されます。

※2：動画を液晶モニタに表示しているときのみ、再生メニューに表示されます。

電源を切ったあとの設定

設定を変更できる項目には、電源を切ったあとも設定を保持しているものと、購入時の設定に戻るものがあります。

下の表は、変更できる項目と、その設定です。購入時の設定は（ ）で表されています。

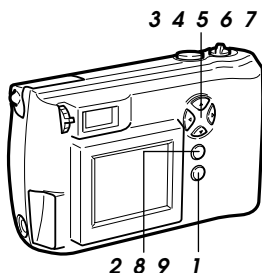
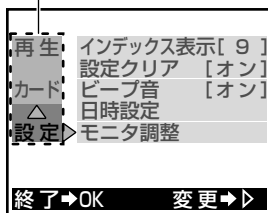
グループ	項目	設定			記憶
再生	画像情報表示	**（オフ）**	オン		△
	プリント予約	**（オフ）**	日付	時刻	○
設定	インデックス表示	4	**(9)**	16	○
	設定クリア	**（オン）**	オフ		○
	ビープ音	**（オン）**	オフ		○
	日時設定	**(2001 年1 月1 日0 時00 分）**			○
	モニタ調整	**（調整バーの中央に設定されています）**			○

表中の「記憶」欄の記号は、項目ごとの下記の特徴を表しています。

○ 再び変更するまで、設定を保持しています。

△ 電源を切ると購入時の設定に戻りますが、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にすると設定を保持するようになります（P.89）。

• カメラから電池を抜いて放置したり、電池が切れているとすべての設定が購入時の状態に戻ります。

再生メニューの操作

1 レンズバリアが閉じている状態で、液晶モニタボタン(IOI)を押します。

再生モードで電源が入り、しばらくすると撮影した最新の画像が液晶モニタに表示されます。

2 メニューボタン(▤)を押します。

液晶モニタに再生メニューが表示されます。

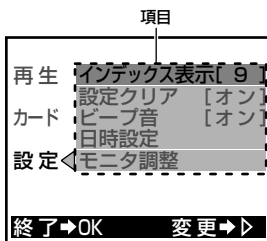
3 十字ボタンの △ ▽ を押してグループ（再生/カード/設定）を切り替えます。

選択したグループが緑色の文字になります。
（左図の例では、設定グループを選択しています。）
このとき、現在の設定を確認できます。設定は、項目の右隣に［ ］で表示されます。

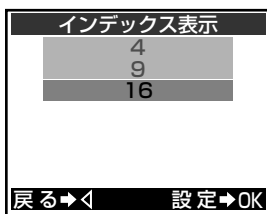
4 十字ボタンの ▷ を押します。

項目の1つが緑色の文字になります。

5

7

5 十字ボタンの △ ▽ を押して設定する項目に合わせます。

選択した項目が緑色の文字になります。

（左図の例では、「インデックス表示」を選択しています。）

6 十字ボタンの ▷ を押します。

その項目の設定画面が表示されます。

7 十字ボタンの △ ▽ を押して目的の設定に合わせます。

選択した設定が緑色の文字になります。
（左図の例では、「16」を選択しています。）

8 OK ボタンを押します。

設定が変更され、メニューの最初の画面が表示されます。

9 OK ボタンを2回押します。

設定が記憶され、メニューが消えます。

変更をキャンセルするには

手順8で、OK ボタンの代わりに十字ボタンの ◁ を押します。

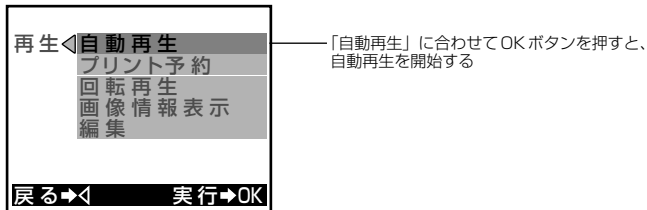
画像を順に再生する

画像（動画では先頭のコマ）を順番に、自動的に表示します。カード内の画像を順に鑑賞したいときに便利です。

再生メニューを表示する前に、**動画（🎥）マークの“ついていない”画像を表示しておきます。**

☞ **操作方法は、「再生メニューの操作」（P.96）をお読みください。**

再生グループの項目

「自動再生」に合わせてOKボタンを押すと、自動再生を開始する

終了するには

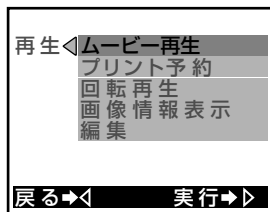
自動再生を終了するには、OKボタンを押します。

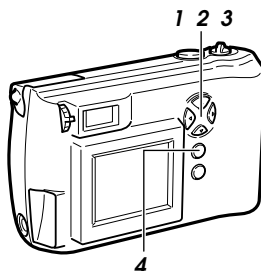
カード内の画像をすべて表示しても、自動再生は終了しません。元に戻って再生がくり返されます。なお、ACアダプタを使用していない場合は、30分ほどでスリープ状態（節電状態）になり、自動的に電源が切れます。

動画を再生する

動画を再生するときは、再生メニューを表示する前に、動画（🎥）マーク のついた再生したい動画を表示しておきます。

☞ **操作方法は、「再生メニューの操作」（P.96）をお読みください。**

再生グループの項目

「ムービー再生」に合わせて▷を押すと、しばらくして画像が動き始める

再生中の操作

1 再生を一時停止するには、十字ボタンのいずれかを押します。

2 一時停止中は、下記の操作ができます。

△ →動画の先頭へ戻る
▽ →動画の最後へ進む
▷ →早送り（1秒以上押す）
◁ →巻き戻し

3 再生を再開するには、十字ボタンの▷を短く押します。

表示中の動画を繰り返し再生します。

4 終了するには、一時停止中にOKボタンを押します。

再生メニューに戻ります。

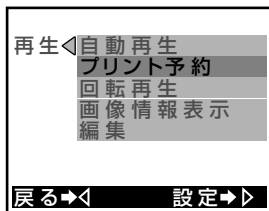
別の動画を再生するには

いったん再生メニューを終了します。再生する動画を選択してから、再び再生メニューを表示してください。

DPOF対応プリンタやラボでプリントする

専用プリンタやDPOF対応プリンタ、DPOF対応ラボ（P.40）で画像をプリントするときは、あらかじめプリントする画像を選んでおくと便利です。ただし、動画（🎥）マークつきの画像は予約できません。

☞ **操作方法は、「再生メニューの操作」（P.96）をお読みください。**

再生グループの項目

「プリント予約」に合わせて▷を押すと、予約画面が表示される

プリント予約の操作

プリント予約の画面では、まず、画像をプリントするときに撮影した日付や時刻を入れるかどうかを指定します。次に、プリントの予約や解除を行います。

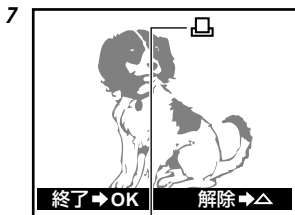
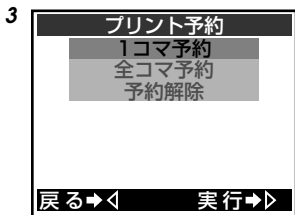
1

1 十字ボタンの △ ▽ を押して、プリントに入れる情報を選択します。

オフ→何も入れない
日付→撮影した日付を入れる
時刻→撮影した時刻を入れる
カード内のすべての画像に、この設定が反映されます。

2 十字ボタンの▷を押します。

予約と予約解除の画面が表示されます。

3

3 十字ボタンの △ ▽ を押して「1コマ予約」を選択し、▷ を押します。

1コマ予約　→プリント予約する画像を選択できます
全コマ予約　→すべての画像をプリント予約できます
予約解除　　→すべての予約を解除します

画像を選択する画面が表示されます。

4

4 必要に応じて、ズームレバーW(■)側を押して一覧表示できます。

5 十字ボタンを押して、予約する画像を選択します。

◁　：1枚前の画像を表示
▷　：次の画像を表示

6 プリント予約マークが表示されるまで、十字ボタンの △ を1秒以上押します。

7

プリント予約マーク

7 予約を解除するときは、再びプリント予約マークが消えるまで、十字ボタンの △ を1秒以上押します。

8 OKボタンを押します。

カードにプリント予約が保存され、メニューの最初の画面が表示されます。

すべての画像をプリント予約するときは

手順3 で「全コマ予約」を選択します。OKボタンを押すと、すべての画像がプリント予約されます。

プリントが終わったら

プリントしたあとも、プリント予約はカードに記憶されています。プリント予約をする画像を新たに選択するときは、まず現在のプリント予約を解除してください。

手順3で「予約解除」を選択してOKボタンを押すと、カード内のプリント予約はすべて解除されます。

- カードの空き容量がない場合や、ライトプロテクトシールが貼られたカードでは、プリント予約できません。
- プリント予約マークが表示されるまでに、少し時間がかかることがあります。
- プリンタまたはラボにより、日付や時刻がプリントされないことがあります。

画像を縦にして再生する

カメラを縦位置に構えて撮影した画像は、液晶モニタに横向きに再生されます。回転再生を設定すると、横向きの画像を縦向きに再生できます。回転再生は画像ごとに設定できます。

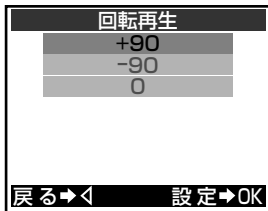
+90

回転

再生メニューを表示する前に、向きを変えたい画像を表示しておきます。プロテクト（P.38）された画像は回転できません。
いったん縦向きに変更した画像は、電源を入れ直したあとも、縦向きで再生されます。

☞ **操作方法は、「再生メニューの操作」（P.96）をお読みください。**

再生グループの項目

「回転再生」に合わせて ▷ を押すと、設定画面が表示される

設定について

+90
画像が右（時計回り）に90度回転します。

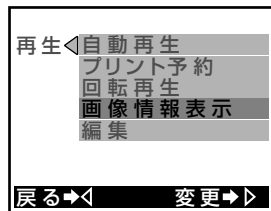
-90
画像が左（反時計回り）に90度回転します。

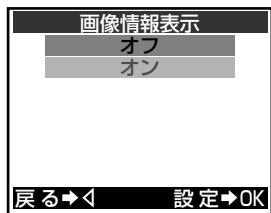
0（最初の設定）
画像の向きが元に戻ります。

液晶モニタに情報を表示する

撮影時に記録したさまざまな情報を、液晶モニタに表示することができます。情報は、画像を再生してから3秒間表示されます。

☞ **操作方法は、「再生メニューの操作」(P.96)をお読みください。**

再生グループの項目

「画像情報表示」に合わせて▷を押すと、設定画面が表示される

設定について

オフ（電源を入れたときの設定）
画質、撮影日時、コマNo.を表示します。画像によっては、動画マーク、プリントマーク、プロテクトマークが表示されます。

オン
次の情報が加わります。
大きさ（記録画素数）、露出補正値、ホワイトバランス、ISO値。
コマNo.の代わりに、ファイル名（P.86）が表示されます。

液晶モニタの表示例は、「各部の名称」の「液晶モニタ」（P.4）をご覧ください。

電源を切ると設定は元に戻ります

電源を切ると、「オフ」に戻ります。

電源を切ったあとも設定を保持させておくには、設定グループの「設定クリア」を「オフ」にします（P.89）。

色や大きさを変えた画像を作成する

白黒写真やセピア色の写真のような色の画像を作成できます。また、小さい画像（記録画素数が少ない画像）を作成することができます。色や大きさを変えた画像は、新しい画像として記録されます。元の画像は変化しません。
再生メニューを表示する前に、編集したい画像を表示しておきます。ただし、プロテクトされた画像は編集できません（P.38）。カードにプロテクトシールが貼ってある場合も編集できません。

☞ **操作方法は、「再生メニューの操作」（P.96）をお読みください。**

再生グループの項目

「編集」に合わせて▷を押すと、設定画面が表示される

設定について

モノクロ
白黒の画像を作成します。

セピア
セピア色の画像を作成します。

リサイズ
記録画素数が320×240の画像を作成します。

ホームページやE-mailに適しています。

「撮影可能枚数が0です」と表示されたときは

作成した画像を記録できません。カードを交換するか、不要な画像を消去（P.39）してください。

- このカメラにない画質設定（記録画素数）の画像では、編集の機能は使用できません。

すべての画像を消去する

カード内のすべての画像を消去します。ただし、プロテクトされた画像は消去されません（P.38）。

☞ **操作方法は、「再生メニューの操作」（P.96）をお読みください。**

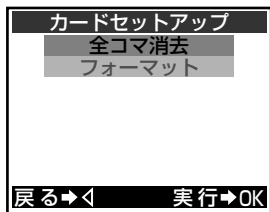
カードグループの項目

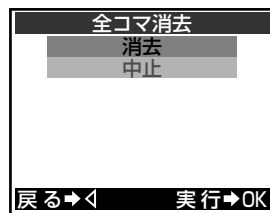
十字ボタンの▷を押す

設定について

全コマ消去
消去
中止
戻る➡◁
実行➡OK

消去の前に確認してください

- 消去された画像は元に戻せません。使用済みカードを全コマ消去する時には、大切なデータを消さないよう十分にご確認ください。残したい画像にはプロテクトを設定してください。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードでは、消去できません。ライトプロテクトシールをはがしてから消去してください。はがしたライトプロテクトシールは再使用しないでください。

全コマ消去
カード内のすべての画像を消去します

フォーマット
（次のページを参照してください）

注意
- 消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ、電池、カードを抜くと、カード内のデータが破壊されることがあります。

カードを初期化（フォーマット）する

他社製のカードや、パソコンなどほかの機器で初期化あるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。このようなカードは、このカメラで初期化してお使いください。
初期化済みのオリンパス製カードのご使用をお勧めします。
初期化が必要なカードを入れた場合は、自動的に初期化モードに入ります。

☞ **操作方法は、「再生メニューの操作」（P.96）をお読みください。**

初期化の前に確認してください

- プロテクトをかけた画像を含む、カード内のすべての画像が消去されます。使用済みカードを初期化するときには、大切なデータを消さないようにご確認ください。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは、初期化できません。ライトプロテクトシールをはがしてから初期化してください。はがしたライトプロテクトシールは再使用しないでください。

カードグループの項目

カード◁カードセットアップ ―― 十字ボタンの▷を押す

戻る➡◁　実行➡▷

設定について

全コマ消去
（P.107を参照してください）

フォーマット
カードを初期化します

初期化の実行と中止

カードセットアップ画面で「フォーマット」を選んでOKボタンを押すと、次の画面が表示されます。

フォーマット
初期化を実行します

中止
初期化を中止します

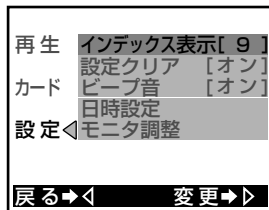
- いったん初期化を開始すると、途中で中止できません。
- 初期化中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ、電池、カードを抜くと、カードが正常に動作しなくなることがあります。

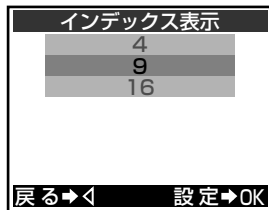
一覧表示のコマ数を変更する

再生モードでは、ズームレバーを押してカード内の画像を一覧表示できます。このときに液晶モニタに表示する画像の数を、「インデックス表示」で変更できます。

設定は、電源を切ったあとも保持されます。

☞ **操作方法は、「再生メニューの操作」(P.96)をお読みください。**

設定グループの項目

「インデックス表示」に合わせて ▷を押すと、設定画面が表示される

設定について

4 ：液晶モニタを4分割して表示します

9 ：液晶モニタを9分割して表示します。（購入時の設定）

16 ：液晶モニタを16分割して表示します

※16分割のときは、画像のコマNo.は表示されません。

画像を一覧表示するには

インデックス表示の設定に従い、画面を4～16分割して画像を一覧表示できます。操作方法については、「まとめて再生しましょう」（P.35）を参照してください。

7

パソコンに撮影画像を読み込みましょう

カメラの画像は、いくつかの方法でパソコンに読み込むことができます。
ここでは、主に付属の専用USBケーブルを使った方法を紹介します。

パソコンに接続する前にお読みください

カメラとパソコンを付属の専用USBケーブルで接続すると、カメラにセットしたカードから、画像をパソコンに読み込むことができます。専用USBケーブルで接続するには、USB端子があるパソコンと、OSによっては次のソフトウェア（ドライバ）が必要です。

お使いのパソコンのOSとUSBのサポート状況については、お使いのパソコンのメーカーにお問い合わせください。

パソコンのOS	接続に必要なソフトウェア	はじめて使うときの注意事項
Windows 2000 Professional Windows Millennium Edition（以下、Me） Mac OS 9～9.1*1	特に必要ありません	特にありません
Windows 98 Windows 98 Second Edition（以下、98SE）	専用USBドライバ*2（付属ソフトウェアCD）	USBケーブルを接続したあと、USBドライバをインストールします（P.116）
Windows 95 Windows NT 漢字Talk 7.5.1～Mac OS 8.5.1	専用USBケーブルは使用できません。フロッピーディスクアダプタ（別売）などをお使いください（P. 126）。	

*1 Mac OS 8.6では、次の条件が揃ったMacintoshでのみ動作を確認しています。
- USB端子を標準で備えている
- Mac OS 8.6とUSB MASS Strage Support 1.3.5が出荷時にインストールされている

USBのサポートについては、アップルコンピュータ社にお問い合わせください。

*2 最新版はオリンパスのホームページからもダウンロードできます。

パソコンで動画（ムービー）を再生するには、お使いのパソコンにQuickTime 4.0がインストールされている必要があります。

アップルコンピュータ社のホームページで無償で配布されていますのでダウンロードして使用することができます。

アップルコンピュータ社ホームページ：
http://www.apple.co.jp/index.html

また、当社の画像編集管理ソフトCAMEDIA Master2.5にも収録されています。

電池で動作しているときは長時間の接続を避けてください

パソコンに接続するとカメラの電源が自動的に入ります。また、接続している間は、カメラはスリープモード（節電状態）になりません。

パソコンからカメラの中のカードを読み書きしているときに電池の残量がなくなると、カード内の画像（画像ファイル）が壊れることや、パソコンが誤動作することがあります。

カメラをパソコンに接続する前に、電池の残量が十分にあることを確認してください。また、カード内の画像ファイルをパソコンで読み込んだあとは、すみやかにカメラを取り外してください。

長時間接続するときは、ACアダプタ（別売）の使用をお勧めします。

ACアダプタを使うときの注意

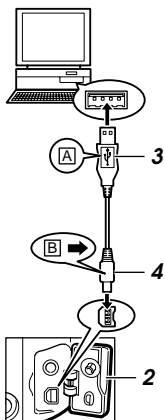
パソコンに接続する前に、カメラの電源が切れていることを確認してからACアダプタを接続してください。

ACアダプタを取り外すときは、あらかじめパソコンからカメラを取り外し、カメラの電源が切れていることを確認してください。

- USBハブを経由してパソコンに接続すると、ハブとパソコンの相性によってはパソコンの動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないで直接パソコンとカメラを接続してください。
- Windows 95からOSをアップグレードしたパソコンでは、専用USBケーブルでの動作を保証できません。フロッピーディスクアダプタ（別売）などをお使いください（P. 126）。
- 拡張カードでUSB端子を増設した機種では、動作を保証できません。
- WindowsとMac OSの左ページの表にあるバージョン以外では、動作を保証できません。

カメラをパソコンに接続する

Windowsパソコンに接続する

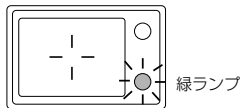
Windows 98／98SEがインストールされているパソコンをお使いの場合、はじめて接続するときは、操作の途中でUSB ドライバをインストールします。付属のソフトウェアCDを用意してください。

ファインダ

1 カメラの電源が切れていることを確認します。

2 カメラのコネクタカバーを開きます。

3 USBケーブルの［A］と刻印されているプラグ部を、パソコンのUSB端子に差し込みます。

4 USBケーブルの［B］と刻印されているプラグ部を、カメラのUSB端子に差し込みます。

パソコンとの接続が正しくできているときは、ファインダ横の緑ランプが点灯します。

Windows 98／98SEをお使いの場合

はじめて接続したときは、付属のソフトウェアCDからUSBドライバをインストールします。次のページの「USBドライバのインストール」を参照してください。

Windows 2000／Meをお使いの場合

はじめて接続したときは、パソコンが自動的にUSBドライバを読み込みます。

インストール終了のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックしてメッセージを消します。パソコンを再起動するなどのメッセージが出ているときは、パソコンの指示に従います。

続いて、「画像ファイルを読み込む」をお読みください（P. 119）。

USB ドライバのインストール（Window 98／98SEのみ）

1

1 カメラとパソコンを接続すると、カメラが新しい機器（ハードウェア）としてパソコンに認識され、左の画面が表示されます。

2

2 ［次へ］ボタンをクリックします。

3

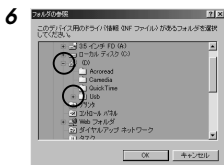
3「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨)」が選択されていることを確認し、［次へ］ボタンをクリックします。

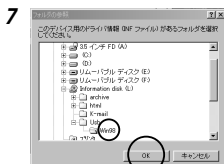
4

例）付属のインフォメーションディスクを入れた場合

4 付属のソフトウェアCDをパソコンのCD-ROMドライブにセットし、しばらく待ちます。

CD-ROMをセットしたときに別のソフトウェアのインストール画面が表示された場合は、［終了］ボタンをクリックして画面を消します。

5「フロッピーディスクドライブ」と「CD- ROM ドライブ」のチェックマークをクリックして外します。次に「検索場所の指定」をクリックしてチェックし、[参照] ボタンをクリックします。

6「CD-ROM ドライブ」アイコン左の [+] をクリックし、「USB フォルダ」アイコンの左の [+] をクリックします。

「USB フォルダ」の下に「Win98」フォルダが表示されます。

7「Win98」フォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

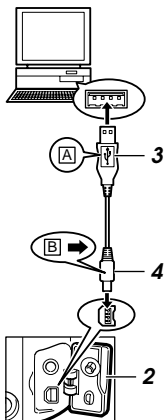
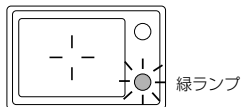
8 [次へ] [次へ] の順にボタンをクリックします。

インストール終了のメッセージが表示されます。メッセージが表示されないときは、USB ケーブルを接続し直してください。

9 [完了] ボタンをクリックしてメッセージを消します。

パソコンを再起動するなどのメッセージが出ているときは、パソコンの指示に従います。

Macintoshに接続する

あらかじめMac OSのバージョンを確認し、カメラと接続できることをご確認ください（P.112）。

ファインダ

1 カメラの電源が切れていることを確認します。

2 カメラのコネクタカバーを開きます。

3 USBケーブルの［A］と刻印されているプラグ部を、パソコンのUSB端子に差し込みます。

4 USBケーブルの［B］と刻印されているプラグ部を、カメラのUSB端子に差し込みます。

パソコンとの接続が正しくできているときは、ファインダ横の緑ランプが点灯します。

デスクトップにカードのアイコン（一般に「名称未設定」アイコン）が表示されます。

カードのアイコンが表示されないときは、USBケーブルを接続し直してください。

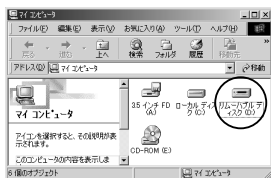
続いて、次の「画像ファイルを読み込む」をお読みください（P. 119）。

画像ファイルを読み込む

Windowsパソコンで画像ファイルを読み込む

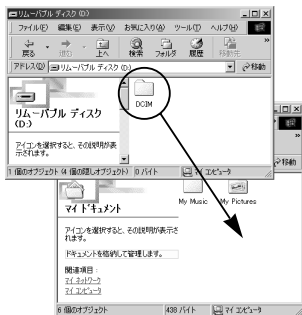
カメラとパソコンを正しく接続すると、カメラにセットしたカードが「マイコンピュータ」のなかに表示されます。フロッピーディスクを扱うときと同じ操作で、カード内の画像ファイルを扱うことができます。

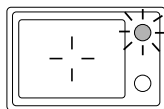
1 接続の手順（P. 114）に従って、カメラとパソコンを接続します。

2 デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして開きます。

3 「リムーバブルディスク」アイコンをダブルクリックして開きます。

「DCIM」フォルダが表示されます。

「DCIM」フォルダがない場合は、カメラとパソコンが正しく接続できていません。接続の手順に従って接続し直してください。

4 コピー先にするフォルダのアイコンを、ダブルクリックして開きます。

5 「DCIM」フォルダをドラッグして、コピー先にするフォルダのウィンドウに重ねます。

「DCIM」フォルダがコピーされます。

コピーなど、パソコンとの間で通信をしているときは、ファインダ横のオレンジランプが点滅します。

画像ファイルは、「DCIM」フォルダ内のフォルダ（一般に「100OLYMP」フォルダ）にあります。
このほかに、エクスプローラなどのファイル管理ソフトで扱うことができます。ファイルのコピーや移動について詳しくは、Windowsのヘルプやパソコンの取扱説明書をお読みください。

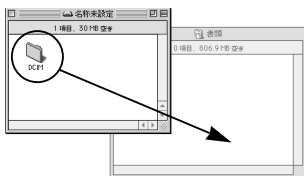
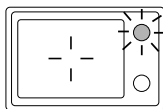
パソコンに読み込んだ画像は、JPEG を扱えるアプリケーションで見ることができます。たとえば、画像処理ソフト（CAMEDIA Master、Paint Shop Pro、Photoshopなど）やWebブラウザ（Netscape Communicator、Microsoft Internet Explorer など）で見ることができます。詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

CAMEDIA Masterをお使いの方へ

カメラをパソコンに接続してCAMEDIA Masterを使って画像を操作する場合、CAMEDIA Masterの「マイカメラ」アイコンをダブルクリックしてもカメラと通信できません。「リムーバブルディスク」アイコンをダブルクリックしてください。

Macintoshで画像ファイルを読み込む

カメラとパソコンを正しく接続すると、カメラにセットしたカードのアイコンがデスクトップに表示されます。ハードディスク内のファイルを扱うときと同じ操作で、カード内の画像ファイルを扱うことができます。

カードのアイコン

1 接続の手順（P. 118）に従って、カメラとパソコンを接続します。

デスクトップにカードのアイコンが表示されます。

カードのアイコン（一般に「名称未設定」アイコン）が表示されない場合は、カメラとパソコンが正しく接続できていません。接続の手順に従って接続し直してください。

2 カードのアイコンをダブルクリックして開きます。

「DCIM」フォルダが表示されます。

3 コピー先にするフォルダのアイコンを､ダブルクリックして開きます。

4「DCIM」フォルダをドラッグして、コピー先にするフォルダのウィンドウに重ねます。

「DCIM」フォルダがコピーされます。

コピーなど、パソコンとの間で通信をしているときは、ファインダ横のオレンジランプが点滅します。

ファインダ

画像ファイルは、「DCIM」フォルダ内のフォルダ（一般に「100OLYMP」フォルダ）にあります。

ファイルのコピーや移動について詳しくは、Mac OSのオンラインヘルプや取扱説明書をお読みください。

パソコンに読み込んだ画像は、JPEG を扱えるアプリケーションで見ることができます。たとえば、画像処理ソフト（CAMEDIA Master、Photoshopなど）やWebブラウザ（Netscape Communicator、Microsoft Internet Explorer など）で見ることができます。詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

CAMEDIA Masterをお使いの方へ

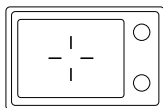
カメラをパソコンに接続してCAMEDIA Masterを使って画像を操作する場合、CAMEDIA Masterの「マイカメラ」アイコンをダブルクリックしてもカメラと通信できません。「名称未設定」アイコンをダブルクリックしてください。

カメラやカードを取り外す

Windowsパソコンから取り外す

パソコンが誤動作する場合があるので、次の操作をする前に、必ず取り出しの準備をしてください。

- カメラからカードを取り出す
- パソコンからカメラを取り外す（USBケーブルを取り外す）

パソコンが誤動作した場合は、USBケーブルを取り外し、パソコンを再起動してください。

ファインダ

取り出しの準備

1 カメラのファインダ横のオレンジランプが消えていることを確認します。

点滅しているときは消えるまでしばらくお待ちください。

2 デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして開きます。

3 「リムーバブルディスク」アイコンを選択し、マウスで右クリックします。

メニューが表示されます。

4 メニューから「取り出し」を選択し、左クリックします。

Windows 98／98SEをお使いの場合

手順4を行うと、カードやUSBケーブルを取り外せるようになります。

Windows 2000／Meをお使いの場合

前のページの手順4を行うと、カードを取り外せるようになります。
USBケーブルを取り外すときは、さらに次の手順で操作してください。

1 前のページの操作を行います。

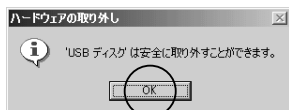
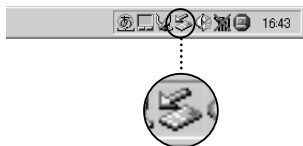
2 タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」（図の円の部分）のアイコンをクリックします。

ドライブを停止するというメッセージが表示されます。

3 メッセージをクリックします。

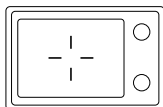
安全に取り外しできるという「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されます。

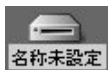
4 ［OK］ボタンをクリックします。

5 パソコンとカメラからUSBケーブルを取り外します。

タスクバーの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをダブルクリックした場合は、ハードウェアの取り外し画面が表示されます。ハードウェアデバイスの一覧からカメラを選択し、［停止］ボタンをクリックしてください。

Macintoshから取り外す

パソコンが誤動作する場合があるので、カメラからカードを取り出したり、パソコンからカメラ（USBケーブル）を取り外すときは、次の手順で操作してください。

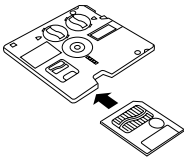
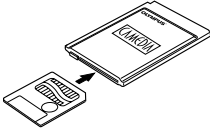
パソコンが誤動作した場合は、USBケーブルを取り外し、パソコンを再起動してください。

ファインダ

オレンジランプ

1 カメラのファインダ横のオレンジランプが消えていることを確認します。

点滅しているときは消えるまでしばらくお待ちください。

2 デスクトップにあるカードのアイコン（一般に「名称未設定」アイコン）を「ゴミ箱」に捨てます。

または、カードのアイコンをクリックし、Finderの「特別」メニューから「取り出し」を選択します。

3 メッセージが表示されたときは、[OK] ボタンをクリックします。

4 カメラからカードを取り出します。

または、カメラとパソコンからUSBケーブルを取り外します。

カメラを使わずに画像ファイルを読み込む

カード用のアダプタを使用すると、カメラをパソコンと接続しなくても画像ファイルをパソコンに読み込むことができます。
それぞれの機器の最新情報については、当社カスタマサポートセンターにお問い合わせください。

パソコンの条件	使用できる機器
3.5型（インチ）フロッピディスクドライブがある	フロッピディスクアダプタ FlashPath
PCカードスロットがある	PCカードアダプタ
USB端子がある	スマートメディアリーダ・ライタ

注意

- パソコンの動作環境やカードの記憶容量などにより、ご使用になれない場合があります。ご使用の前にお確かめください。
- 使用方法については、それぞれの機器に付属の取扱説明書をお読みください。

8

付 録

故障かなと思ったときには、以降のページを参照してください。
また、仕様やそのほかの詳細情報についても説明しています。

Q&A

Q どのようにすれば電池は長持ちしますか。

A 液晶モニタの使用時間、フラッシュの使用頻度、電池の種類および銘柄、使用環境温度などによって大きく変わります。とくに液晶モニタを点灯させたままにすると電池の消耗が激しいので、こまめに電源を切るようにしてください。別売の専用ACアダプタを使用しますと電池寿命を心配しなくてすみます。

Q 画像データに記録される日付が正しくないのですが。

A ご購入時には日付が設定されておりませんので、撮影前に日付を正しく設定してください（P.12）。カメラから電池を抜いて約1時間放置すると、ご購入時の状態に戻ります。

Q フィルターやフードは取り付けられますか。

A 取り付けられません。

Q 外付けフラッシュは使用できますか。

A 使用できません。またスレーブユニットも正常に動作しません。

Q フラッシュを使用して人物撮影をしたら、目が赤く写ってしまったのですが。

A どのカメラでも、フラッシュを用いた人物撮影では目が赤く写ることがあります。これは、網膜がフラッシュの光を反射するために起こる現象です。個人差が大きく、また周囲の明暗や被写体との距離などの撮影条件によっても異なります。

赤目軽減発光モードを使用することにより、発生頻度を大幅に軽減できます（P.59）。

Q カメラはどのように保管すれば良いのですか。

A カメラはホコリ、湿気、塩分を嫌います。よくふいて乾燥させて、保管してください。海辺で使ったあとは、真水で浸した布を硬く絞ってふき取ると良いでしょう。防虫剤の使用は避けてください。また、長期保管の場合は電池を抜いてください。

修理に出す前にお確かめください

操作上のトラブル

カメラが動かない。

原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている。	レンズバリアをあけて、電源を入れてください。	P.18
電池の向きが正しくない。	電池を正しく入れ直してください。	P.7
電池がない。	新しい電池を入れてください。	P.7
カードカバーが正しく閉じられていない。	カードカバーを正しく閉じてください。	P.10
寒さで電池の性能が一時的に低下した。	電池をポケットなどで温めてから使用してください。	—
節電機能が働いた。	レンズバリアをいったん閉めて、再び開けてください。	P.18
パソコンに接続している。	パソコンに接続中は、カメラは動作しません。	P.114

電池の消耗が早い。

原因	こうしましょう	参照ページ
長期間カメラに電池を入れたままにしていた。	長期間カメラを使わないときには、カメラから電池を外しておいてください。	—
常に液晶モニタをつけて撮影している。	液晶モニタはこまめに消して使用してください。	P.26

液晶モニタが見にくい。

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタの輝度の設定が適切ではない。	液晶モニタの輝度調節をしてください。	P.91
太陽光の下である。	太陽の光を手などでさえぎってください。	—

シャッターボタンを押しても撮影ができない。

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影モードになっていない。	レンズバリアを開けてください。	P.18
カメラにカードが入っていない。	新しいカードを入れてください。	P.10
カードの容量がいっぱいになった。	カードを交換するか、不要な画像を消去するか、画像をパソコンなどに転送して全コマ消去を行ってください。	P.10 P.39 P.112
カードに問題がある。	エラーメッセージ表をご参照ください。	P.136
カードにライトプロテクトシールが貼られている	ライトプロテクトシールをはがしてください。または、新しいカードを入れてください。	P.10 P.11
フラッシュの充電が完了していない。または、撮影後の処理中である。	一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプまたは緑ランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.27
メモリゲージがすべて点灯してる。	内蔵メモリがいっぱいです。メモリゲージの一番上が消灯すると次の撮影ができます。	P.26
🎥（動画撮影モード）で撮影後、メモリゲージが点灯している。	撮影した動画をカードに記録中です。メモリゲージがすべて消えるまで待ってから撮影してください。	P.54
電池残量が少なくなった。	電池を交換してください。（ただし、カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.7
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	電池を新品と交換してください。	P.7

フラッシュが発光しない。

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが開ききっていない。	指などでフラッシュをおさえず、フラッシュを上まで開ききって使用してください。	—
明るい被写体である。	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュモードを「強制発光」にしてください。（連写、パノラマ撮影、動画撮影では、フラッシュは使用できません。）	P.60

液晶モニタ上で再生ができない。

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影モードになっている。	レンズバリアを閉じて、液晶モニタボタン（|◯|）を押し、液晶モニタを点灯させてください。	P.32
カードに画像が記録されていない。	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	P.24
カードに問題がある。	エラーメッセージ表をご参照ください。	P.136
テレビに接続している。	テレビに接続中は、液晶モニタは消灯します。	P.37

画像の編集、プロテクト、1コマ消去、全コマ消去、初期化ができない。

原因	こうしましょう	参照ページ
カードにライトプロテクトシールが貼られている。	シールをはがしてからご使用ください。シールは再使用しないでください。	P.11

パソコンと接続したとき､データ転送中にエラーメッセージが出る。

原因	こうしましょう	参照ページ
ケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続されていることを確認してください。	P.114 P.118
電池がない。	新しい電池を入れるか、ACアダプタ（別売）をお使いください。	P.7 P.15
USB ドライバが正しくインストールされていない。	USB ドライバのインストール手順に従って､インストールし直してください。	P.116

画像の出来が良くない場合

できあがった画像が明るすぎる。

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュモードが「強制発光」になっていた。	「強制発光」以外のフラッシュモードを選んでください。	P.57
高輝度の被写体に向かって撮影した。	露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.70

できあがった画像が暗い。

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを指などで覆ってしまった。	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.22
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	フラッシュ撮影可能な範囲内で撮影してください。	P.27
フラッシュが必要な状況で、フラッシュモードを「発光禁止」にしていた。	周りの状況に合わせてフラッシュモードを切り替えてください。	P.57
小さい被写体を逆光で撮影した。	フラッシュを「強制発光」にセットするか、スポット測光モードで撮影してください。	P.60 P.68
連写に設定して撮影した。	シャッタースピードが速いために、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	P.51

画像の一部が欠けてしまった。

原因	こうしましょう	参照ページ
レンズに指やストラップがかかってしまった。	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気をつけてください。	P.22
撮影距離が近かった。	液晶モニタを使ってください。	P.23

室内で写した写真の色がおかしい。

原因	こうしましょう	参照ページ
照明の色が影響した。	フラッシュのモードを「強制発光」にして撮影してください。	P.60
被写体に白い部分がなかった。	白い被写体を入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.79
ホワイトバランスの設定を間違えた。	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.79

ピントが合っていない。

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった。(手ぶれ)	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P.22 P.25
ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれてしまった。	ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P.46
レンズが汚れていた。	レンズをきれいにしてください。	—
使用しているモードが違っていた。	0.2～0.8mの範囲に被写体がある場合はマクロモードを使い、それより遠い場合は通常モードを使ってください。	P.23 P.49
セルフタイマ撮影で、カメラの直前に立ってシャッターボタンを押した。	カメラの前に立たず、ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P.53
フラッシュの必要な状況だったが、「発光禁止」にして撮影した。	シャッタースピードが遅くなり、露出時間が長くなりますので、三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えてください。	P.3 P.60
ワンタッチフォーカスで被写体までの距離を確認せずに撮影してしまった。	ワンタッチフォーカスのピントが合う範囲で撮影してください。	P.47

エラーメッセージ表

このカメラでは各種の警告をエラーメッセージで表示します。

警告 液晶モニタ表示	エラー内容	対応
カードの無し警告 [!] カードを認識できません	カードが入っていません。	カードを入れてください。
	認識しません。	カードを入れ直してください。
カードフル警告 [!] 撮影可能枚数が0です	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消去してください。
ライトプロテクト警告 [!] 書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	撮影をする場合はプロテクトシールをはがしてください。
カードエラー警告 [!] このカードは使用できません	撮影・再生・消去することができません。	きれいな乾いた柔らかい布などでカードの接触面（金色部分）を軽く拭き、もう一度挿入してください。再びカードエラー警告が表示される場合、このカードはご使用になれません。

アフターサービスについて

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」などの記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また、保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙のオリンパスサービスステーションにご相談ください。使用説明書に従ってお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。また運賃諸掛かりはお客様のご負担となります。

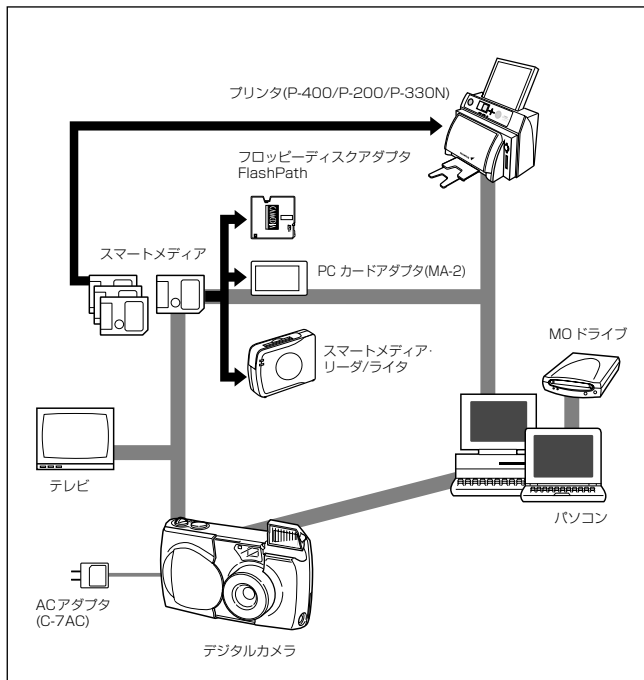
● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後５年間を目安に当社で保有しています。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店または、お近くのオリンパスサービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。海外では修理できません。万一、海外で故障や不具合が生じたときは、お持ち帰り後に日本国内のサービスステーションまでお問い合わせください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失など)については補償いたしかねます。

別売品との組み合わせかた

このカメラは、別売の機器と以下のように組み合わせてご利用になれます。

2001年3月現在

別売品のご案内

● スマートメディア（8MB/16MB/32MB/64MB/128MB）

● 専用プリンタ（P-400/P-200/P-330N）

● ACアダプタ（C-7AC）

● ニッケル水素電池（B-03NH16）

● ニッケル水素電池専用充電器セット（BU-40SNH）

● PCカードアダプタ

● フロッピーディスクアダプタFlashPath
　＊DOS/V ：Windows 98/98SE/Me/2000Professional/NT4.0
　＊PC-9821 ：Windows 95（OSR2以降）/98
　＊Power Macintosh：漢字Talk 7.5.1～Mac OS 9.1（読み取り専用）

●スマートメディア・リーダ／ライタ
　＊64MBスマートメディアまで対応
　＊Mac OS 8.6 ～9.1、Windows 98/98SE/Me/2000Professional

以上は2001年3月現在の情報です。
別売品の最新情報については、オリンパスホームページ
（http://www.olympus.co.jp）をご覧ください。

画像ファイルの互換性について

画像の再生について

オリンパスデジタルカメラで撮影してカードに記録した画像は、ほかのオリンパスデジタルカメラでも再生できます。ただし、再生するカメラの性能によっていくつかの制限があります。

- 再生するカメラの最大画像サイズより大きなサイズの静止画像は、サムネイルで再生される場合があります。
- 縦横比が異なる画像サイズのカメラで再生すると、黒い縁がついた画像で再生されます。
- TIFF ファイルは再生できない場合があります。また画像サイズによっても、再生できない場合があります。ダイレクトプリントのできるカメラで再生した場合でも、これらの制限でダイレクトプリントができない場合があります。
- 再生するカメラのバッファメモリの大きさにより、動画の再生時間には上限があります。上限を超える長さの動画は再生できない場合があります。
- 再生するカメラに同じ動画の画質設定（記録画素数・撮影速度fps ）がないときは、再生できない場合があります。

以下のカメラでは、このカメラで撮影した画像を再生することはできませんので、あらかじめご了承ください。

C-900ZOOM(D-400ZOOM)、C-830L、C-840L(D-340L)、
C-820L(D-320L)、C-420L、C-1400XL、C-1400L、C-1000L

画像の編集について

- このカメラにない画質設定（記録画素数）の画像（P.21、P.81）では、編集の機能（P.106）は使用できません。

仕様

形式	：デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式	
静止画	：デジタル記録、JPEG、TIFF非圧縮（DCF準拠）/DPOF対応
動画	：QuickTime Motion JPEGに準拠
記録媒体	：3V (3.3V) スマートメディア 4MB、8MB、16MB、32MB、64MB、128MB
記録コマ数（8MBカード）	：1枚(TIFFモード／1600×1200ピクセル) 約5枚(SHQモード) 約16枚(HQモード) 約32枚(SQ高画質モード／640×480ピクセル) 約82枚(SQ標準モード／640×480ピクセル)
消去	：1コマ消去、全コマ消去
撮像素子	：1/2.7型（インチ）CCD固体撮像素子 211万画素(総画素数)
記録画素数	：640X480ピクセル〜1600X1200ピクセル（静止画）
ホワイトバランス	：フルオートTTL、プリセット（晴天、曇天、電球、蛍光灯）
レンズ	：オリンパスレンズ 5.4〜16.2mm、F2.8〜4.4、6群8枚(35mmフィルム換算35〜105mm相当)
測光方式	：撮像素子によるデジタルESP測光方式、スポット測光
露出制御方式	：プログラム自動露出
絞り＊	：W：F2.8、F5.6 T：F4.4、F8.6
シャッター＊	：1/2〜1/1000秒(メカニカルシャッター併用） ＊マニュアル設定はできません。
撮影範囲	：0.8m〜∞(通常モード) 0.2m〜0.8m(マクロモード)

ファインダ：光学実像式ファインダ(AFターゲットマーク)、液晶モニタ

液晶モニタ：1.8型（インチ）TFTカラー液晶

モニタ画素数：約61000画素

オンスクリーン表示：日付時刻、コマNo.、プロテクト、画質モード、電池残量、ファイルNo.、プリント予約、メニュー、ほか

フラッシュ充電時間：約8秒以下(常温時、新品電池使用)

フラッシュ撮影範囲：W：約0.2m〜4m
T：約0.2m〜2.6m

フラッシュモード：オート発光(低輝度時自動発光、逆光時自動発光)、赤目軽減発光、発光禁止、強制発光、夜景、夜景＋赤目軽減

オートフォーカス：TTL方式AF

検出方式：コントラスト検出方式／
焦点調節範囲：0.2m〜∞

セルフタイマー：作動時間約12秒

外部コネクタ：DC入力端子、
USB端子、
ビデオ出力端子(NTSC方式)

日付・時刻：画像データに同時記録

自動カレンダー機能：2031年まで自動修正

カレンダー用電源：内蔵キャパシタによるバックアップ

使用環境

温度：0〜40℃(動作時)／
−20〜60℃(保存時)

湿度：30〜90%(動作時)／
10〜90%(保存時)

電源：単3アルカリ電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、ニッカド電池のいずれか4本。あるいはCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個。単3マンガン電池は使用できません。

大きさ　：幅117.5mm×高さ49.5mm×厚さ66.0mm
(突起部含まず)

質量　：240g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

記録画素数

画像を形成する最小単位の点のこと。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

銀塩写真

ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ

撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないことを、けられといいます。また、ファインダでのぞいたときに撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことや、撮影レンズに不適切なフードを使った場合などに視野の四隅が暗くなることもいいます。

絞り

レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを、開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。このカメラでは、自動的に最適な絞りに設定します。

露出

画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を、調節して露出を決めます。ここのカメラでは、自動的に最適な露出に設定します。必要に応じて露出補正機能で調整することもできます。

CCD(charge coupled device)

レンズを通して入ってきた光を受けて、電気信号に変換する素子。このカメラでは、211 万個の点で受けてRGBの信号に変換し、一つの画像を作り出します。

DPOF(digital print order format)

デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。撮影したい画像を保存したカードに、プリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF 対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行うことができます。

デジタルESP測光(electro selective pattern)

分割測光素子によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

EV(exposure value)

露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段速くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO 感度でも表せます。

ISO

国際標準化機構(ISO)の規格で決められた、フィルム感度の表示法。「ISO 100」と表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG(joint photographic experts group)

カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した画像は、画質をSHQ/HQ/SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込むと、画像処理ソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト(ブラウザ)で見ることができます。

NTSC(National Television Standards Committee)

本来は標準ビデオ信号を定義するために設立された組織の名称で、現在はテレビの放送方式の名称としても使われています。NTSC方式は、おもに日本と北米のテレビ放送に使われています。

TIFF(tagged image file format)

モノクロやカラーの画像データを保存するためのフォーマット。画像処理ソフトで扱えます。

TFT(thin-film transistor)カラー液晶

このカメラの液晶モニタに使用している薄膜技術によるカラー液晶。

TTL(through-the-lens)方式

カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

索引

8
付録

は

ま

や

ら

わ

8
付録

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌	011-231-2338	金　沢	076-262-8259
仙　台	022-218-8437	大　阪	06-6252-0506
新　潟	025-245-7343	高　松	087-834-6180
東　京（八王子）	0426-42-7499	広　島	082-222-0808
松　本	0263-36-2413	福　岡	092-724-8215
静　岡	054-253-2250	鹿児島	099-222-5087
名古屋	052-201-9585	沖　縄	098-864-2548

※上記のアクセスポイントまで電話をかけていただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。アクセスポイントまでの電話料金はお客様のご負担となりますので、ご了承ください。

営業時間　9：30～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jpでデジタルカメラおよび関連製品の情報を提供しています。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休みます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1の13の4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0024	金沢市西念1の1の3　コンフィデンス金沢	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

VT256404